

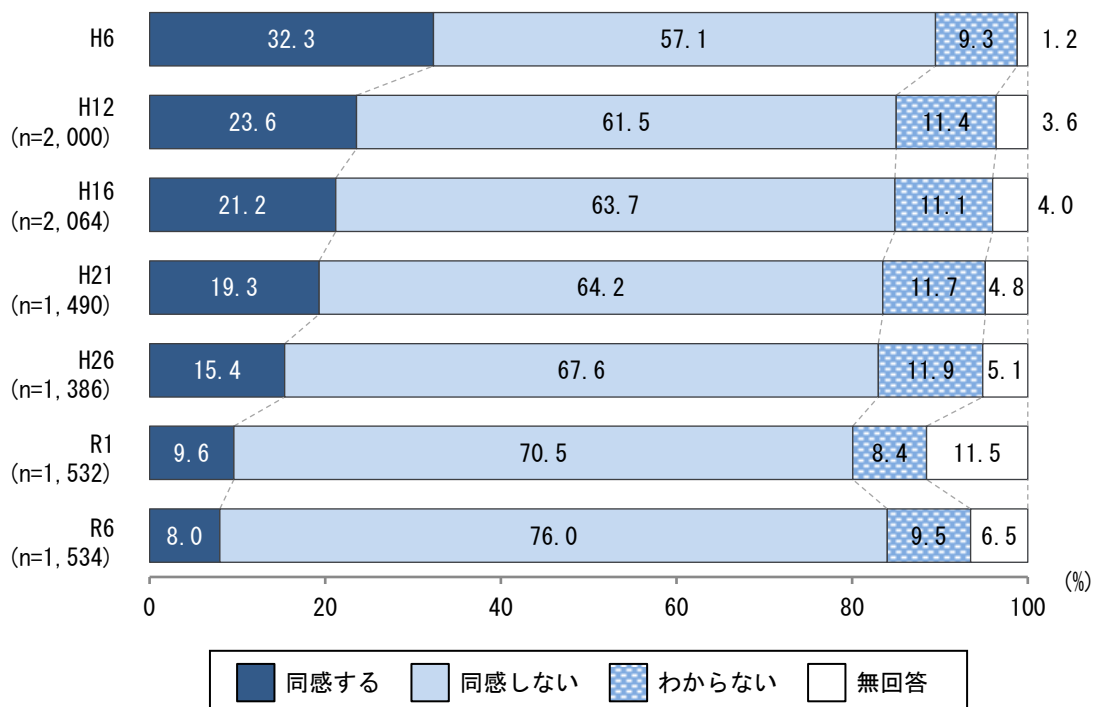
Ⅱ 調査結果

1 男女の役割分担意識や家庭観について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。(✓は1つ)

【図表1-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方】

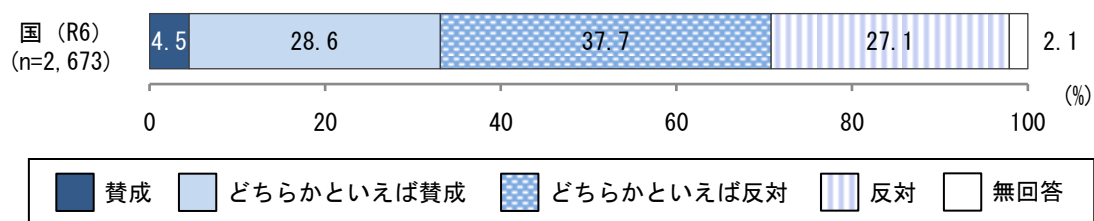


「同意しない」が7割台半ばとなっており、前回よりも増加

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同意しない」が76.0%と最も高く、次いで「わからない」(9.5%)、「同意する」(8.0%)などの順となっている。

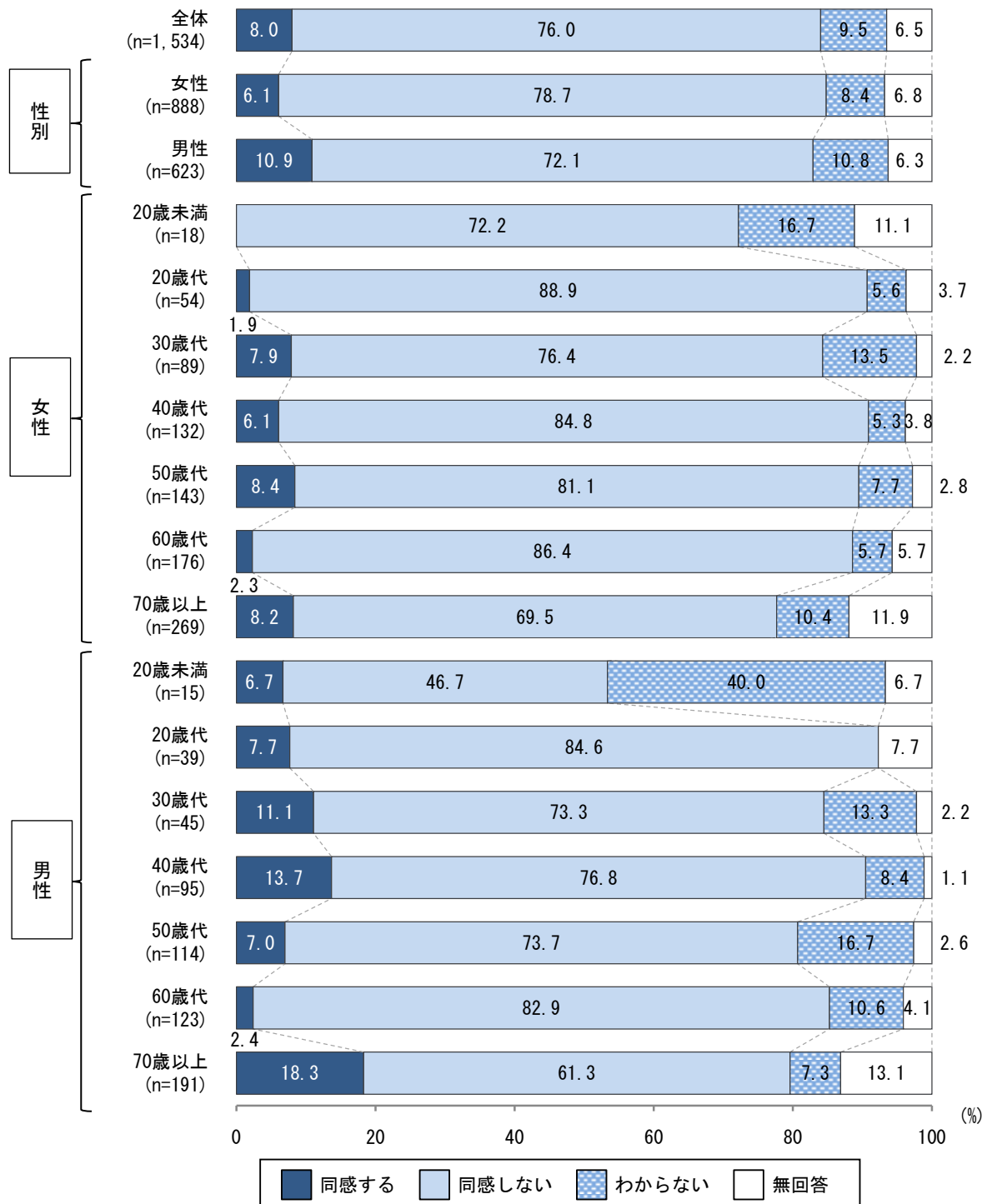
経年比較でみると、「同意しない」は増加傾向、「同意する」は減少傾向にある。

【図表1-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方(国調査)】



※国調査「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年9月調査)

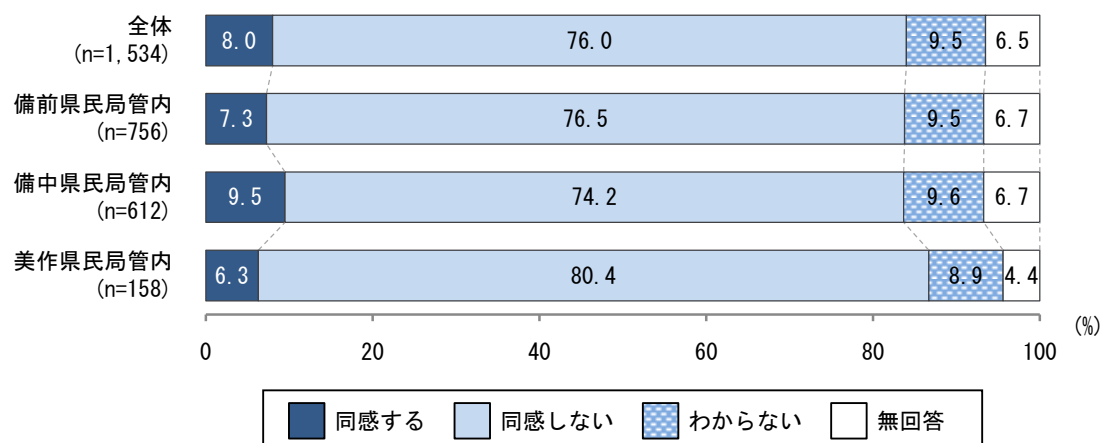
【図表1-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方(性別、性年代別)】



性別にみると、「同意しない」は女性(78.7%)が男性(72.1%)を 6.6 ポイント上回っている。

性年代別にみると、「同意しない」は女性は 30 歳代及び 70 歳以上を除き、8割台と高くなっている。男性は 20 歳代及び 60 歳代で8割超と高くなっている。

【図表1-4 「男は仕事、女は家庭」という考え方(地域別)】



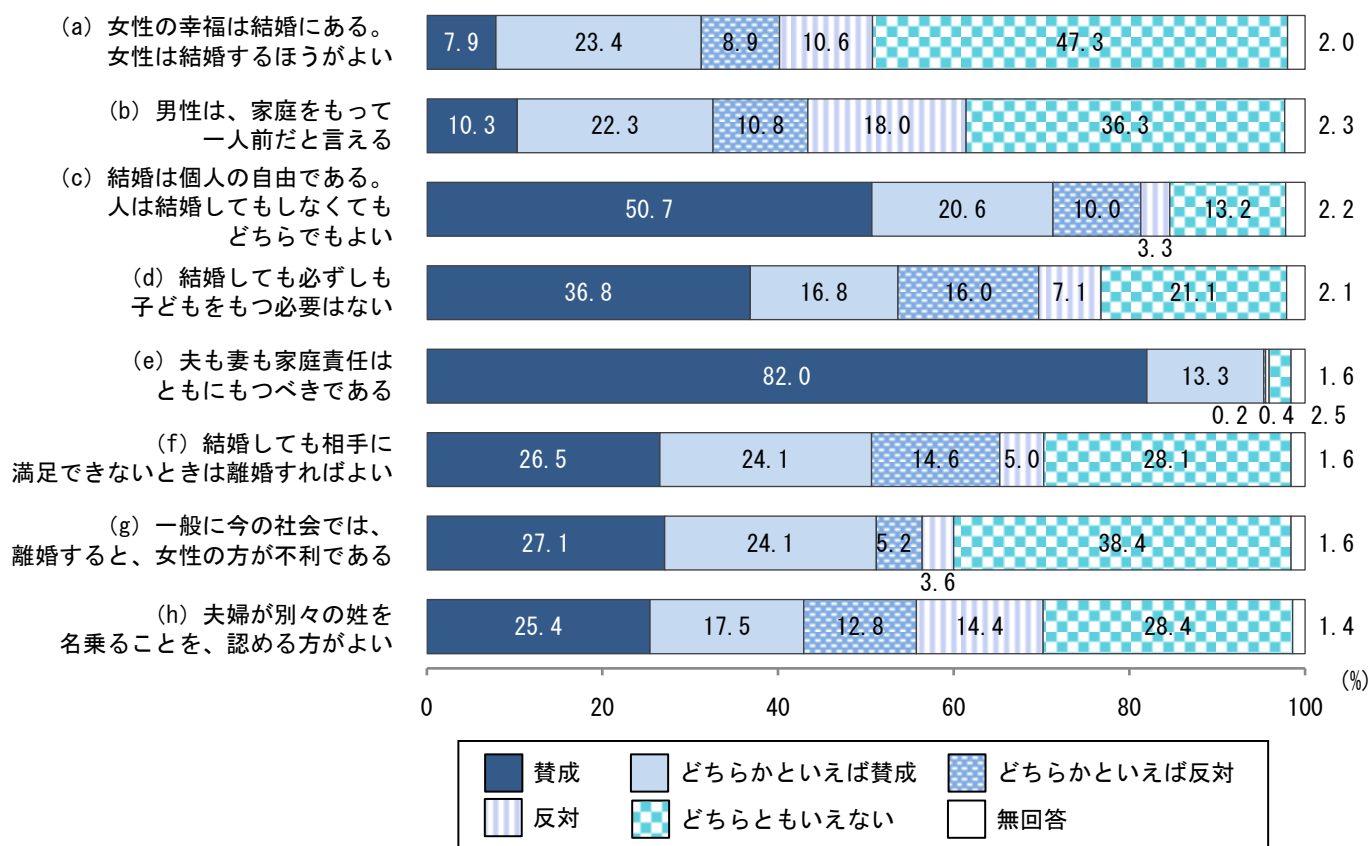
地域別にみると、「同意しない」は美作県民局管内(80.4%)が備中県民局管内(74.2%)を 6.2 ポイント上回っている。

(2) 結婚・離婚・夫婦別姓等についての考え方

問2 結婚や離婚、夫婦別姓等について、あなたのお考えに最も近いものをお答えください。
((a)～(h)でそれぞれ1つだけ✓)

【図表2-1 結婚・離婚・夫婦別姓等についての考え方】

(n=1,534)



「夫も妻も家庭責任はともにもつべきである」は9割台半ばが『賛成』

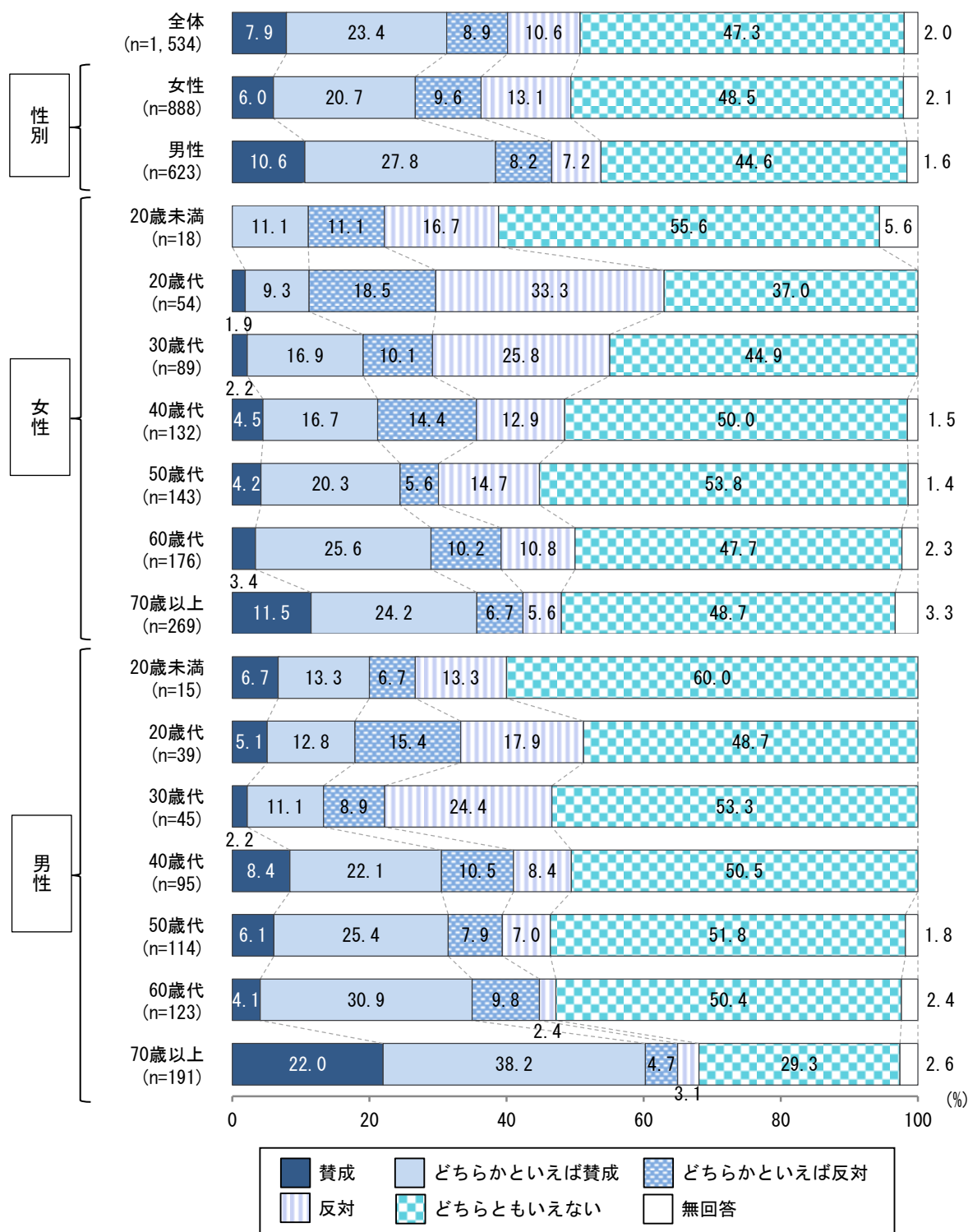
結婚・離婚・夫婦別姓等についての考え方について、「夫も妻も家庭責任はともにもつべきである」は『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）が 95.3%と高くなっている。また、「結婚は個人の自由である。人は結婚してもしなくてもどちらでもよい」も 71.3%と高くなっている。

「男性は、家庭をもって一人前だと言える」、「夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい」は『賛成』、『反対』、『どちらともいえない』に意見が分かれている。

「女性の幸福は結婚にある。女性は結婚するほうがよい」は、「どちらともいえない」が約5割となっている。

(a) 女性の幸福は結婚にある。女性は結婚するほうがよい

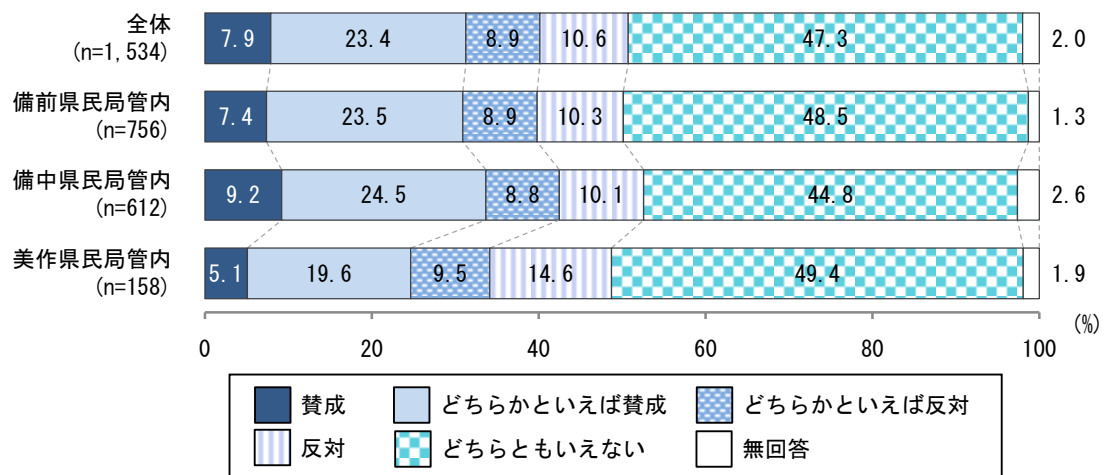
【図表2-1-1 女性の幸福は結婚にある。女性は結婚するほうがよい(性別、性年代別)】



性別にみると、『賛成』は男性(38.4%)が女性(26.7%)を11.7ポイント上回っている。

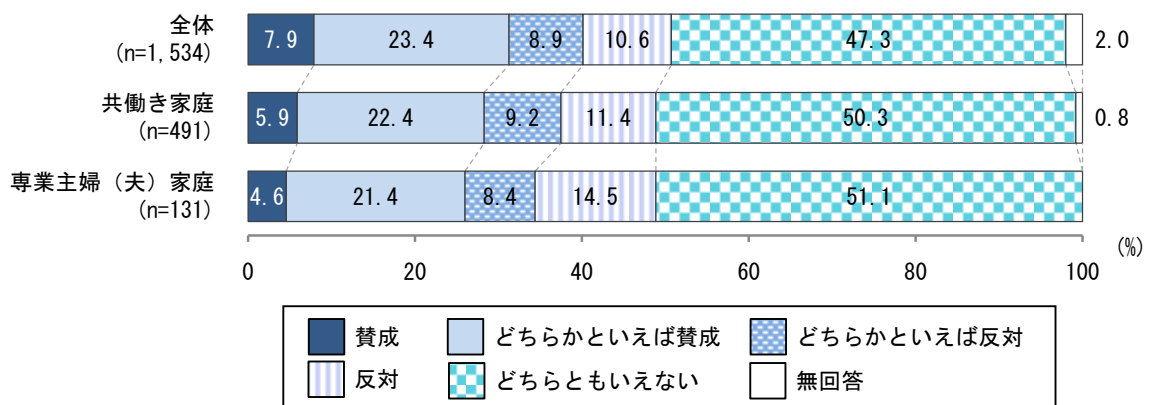
性年代別にみると、『反対』は女性20歳代で5割超と高くなっている。一方、『賛成』は女性は70歳以上で3割を超え、男性は40歳代から割合が高くなり、70歳以上で約6割と高くなっている。

【図表2-1-2 女性の幸福は結婚にある。女性は結婚するほうがよい(地域別)】



地域別にみると、『賛成』は備前県民局管内及び備中県民局管内で3割を超えている。『反対』は美作県民局管内で2割台半ばとなっている。

【図表2-1-3 女性の幸福は結婚にある。女性は結婚するほうがよい(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表2-1-4 女性の幸福は結婚にある。女性は結婚するほうがよい(経年比較)】

(単位:%)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H12	22.9	33.3	34.0	5.0	3.7	56.2	8.7
H16	21.8	31.3	37.3	3.5	4.4	53.1	7.9
H21	18.6	32.5	38.3	5.1	4.6	51.1	9.7
H26	16.9	32.3	37.7	5.6	6.6	49.2	12.1
R1	9.0	26.4	43.1	9.1	8.4	35.4	17.5
R6	7.9	23.4	47.3	8.9	10.6	31.3	19.5

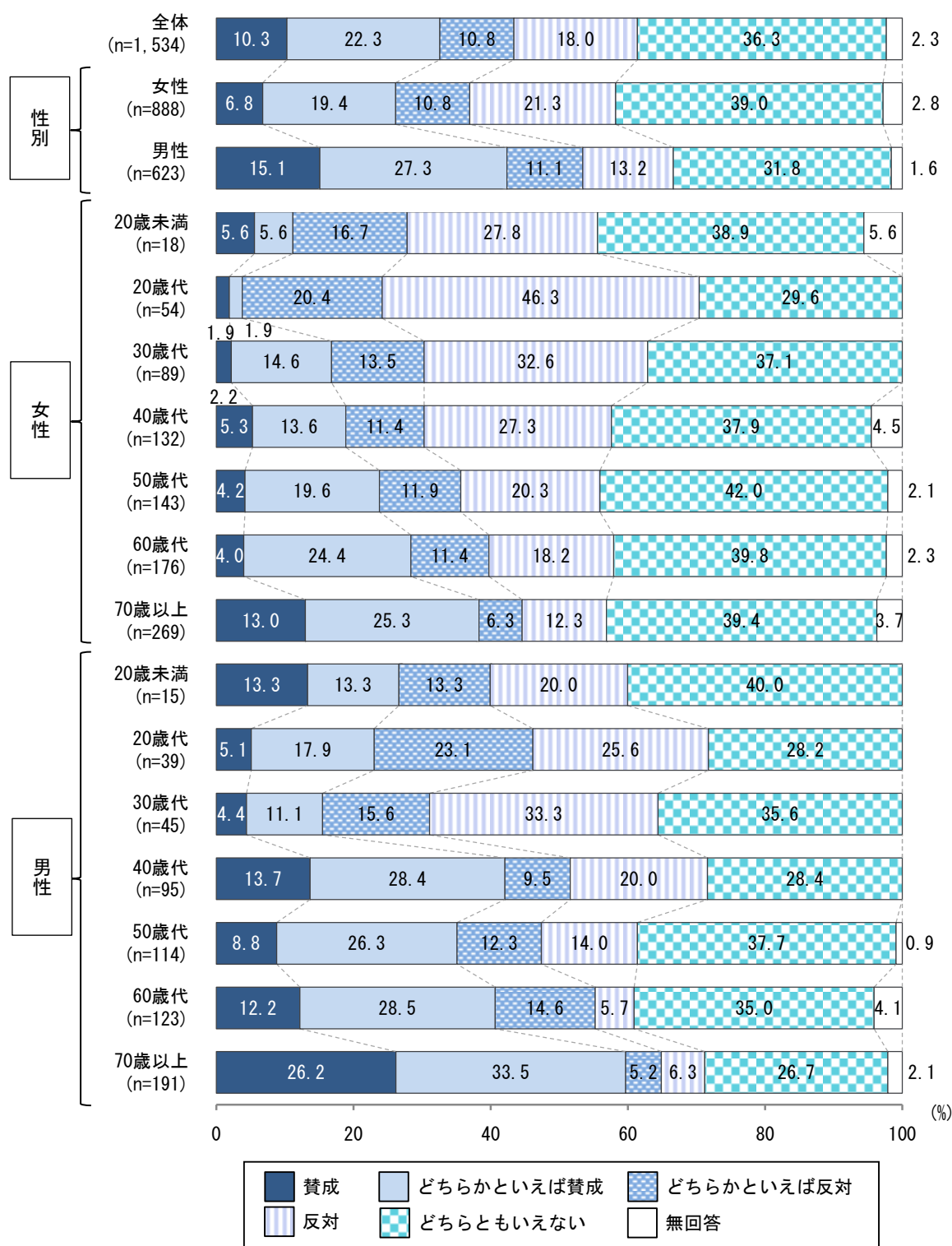
経年比較でみると、『賛成』は減少傾向にある。

※「女性の幸福は結婚にある、女性は結婚するほうがよい」は H12、H16、H21、H26、R1 調査では「なんと言っても女性の幸福は結婚にあるので、女性は結婚するほうがよい」となっている。

※図表2-1-4は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(b)男性は、家庭をもって一人前だと言える

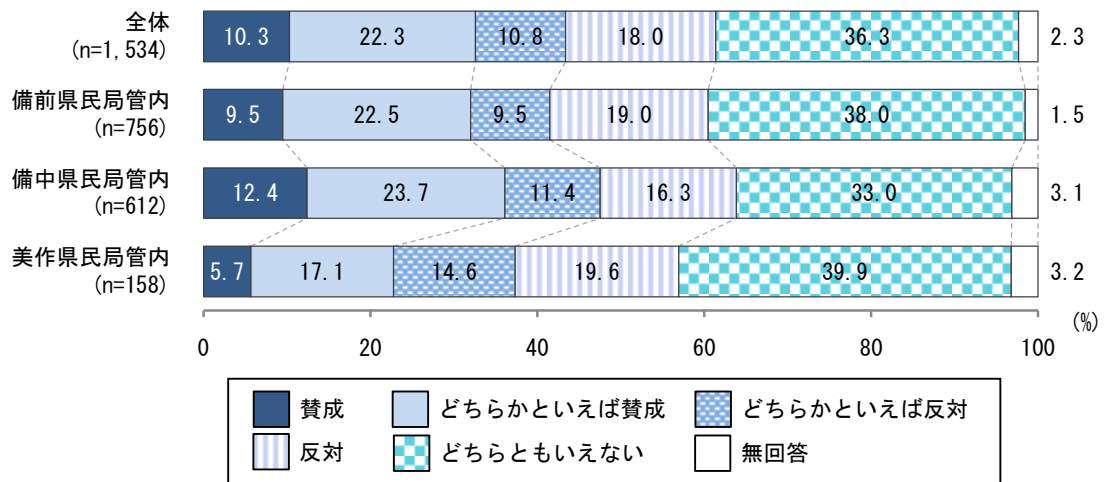
【図表2-2-1 男性は、家庭をもって一人前だと言える(性別、性年代別)】



性別にみると、『賛成』は男性(42.4%)が女性(26.2%)を 16.2 ポイント上回っている。

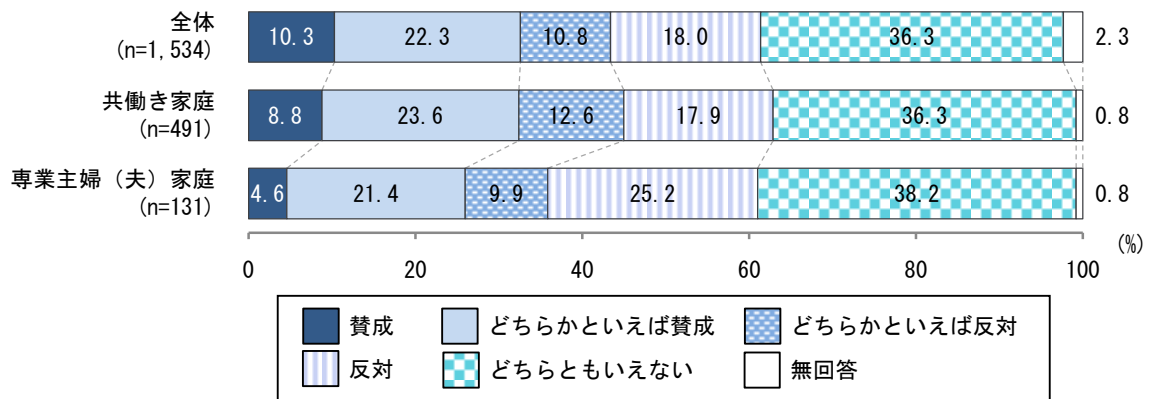
性年代別にみると、女性は年代が上がるにつれて『賛成』の割合が高くなる傾向がみられ、男性は 70 歳以上で『賛成』が約6割と高くなっている。

【図表2-2-2 男性は、家庭をもって一人前だと言える(地域別)】



地域別にみると、美作県民局管内は『賛成』が2割台と低く、『反対』が3割台半ばと高くなっている。

【図表2-2-3 男性は、家庭をもって一人前だと言える(就労状況別)】



就労状況別にみると、『賛成』は共働き家庭(32.4%)が専業主婦(夫)家庭(26.0%)を 6.4 ポイント上回っている。

【図表2-2-4 男性は、家庭をもって一人前だと言える(経年比較)】

(単位:%)

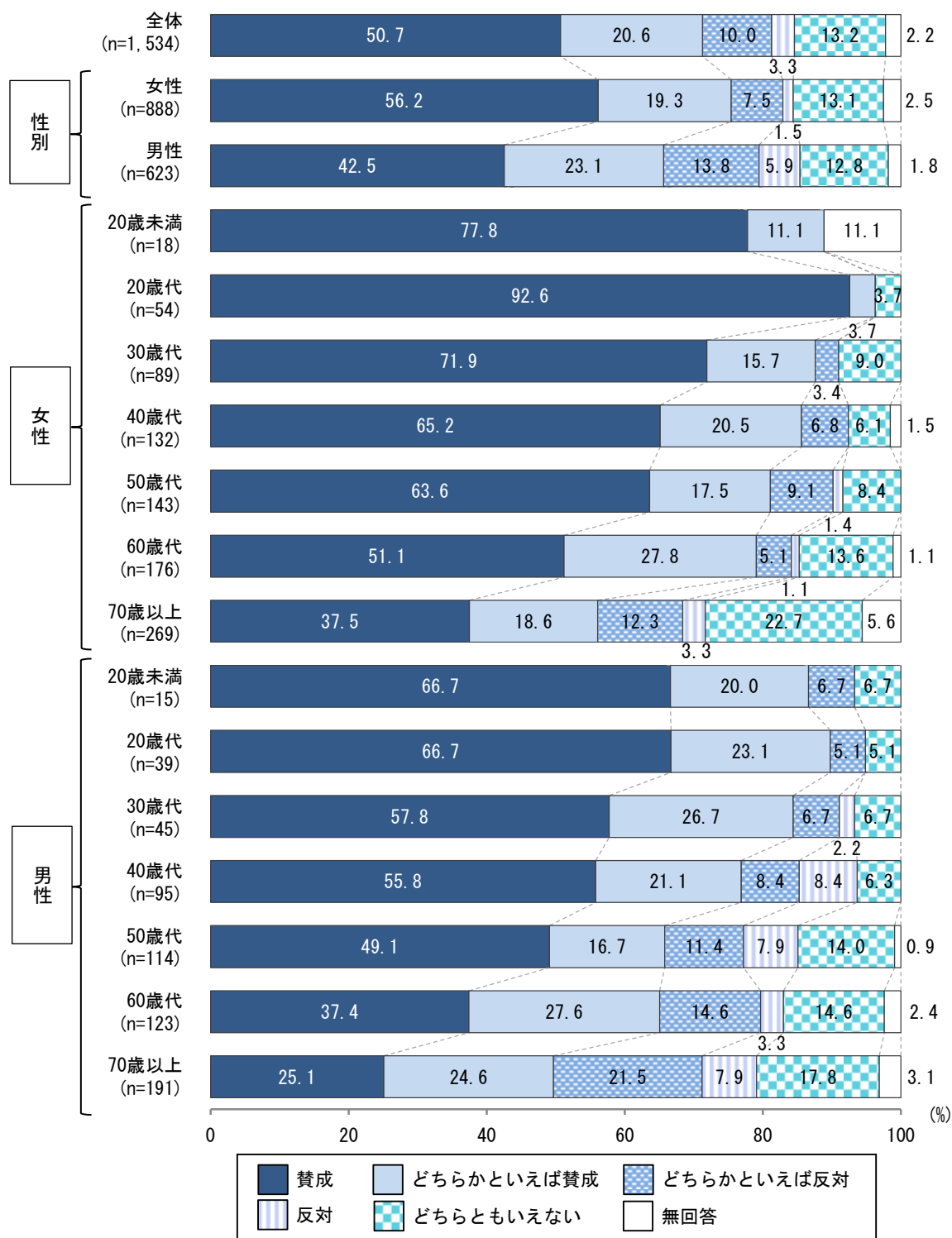
	賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらとも いえない	どちらかといえ ば反対	反対	賛成計	反対計
H21	24.2	24.1	31.0	6.8	12.8	48.3	19.6
H26	24.0	32.5	27.1	6.7	8.8	56.5	15.5
R1	13.8	25.6	35.2	8.6	13.1	39.4	21.7
R6	10.3	22.3	36.3	10.8	18.0	32.6	28.7

経年比較でみると、『賛成』は減少傾向にある。また、『反対』は令和6年調査(28.7%)が令和元年調査(21.7%)を7.0ポイント上回っている。

※図表2-2-4は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(c)結婚は個人の自由である。人は結婚してもしなくてもどちらでもよい

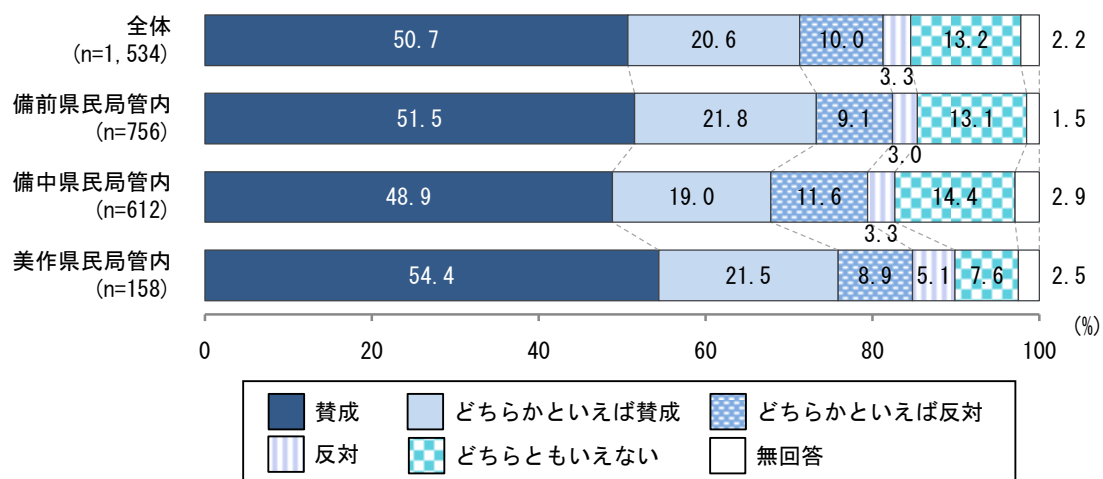
【図表2-3-1 結婚は個人の自由である。人は結婚してもしなくてもどちらでもよい(性別、性年代別)】



性別にみると、『賛成』は女性(75.5%)が男性(65.6%)を 9.9 ポイント上回っている。

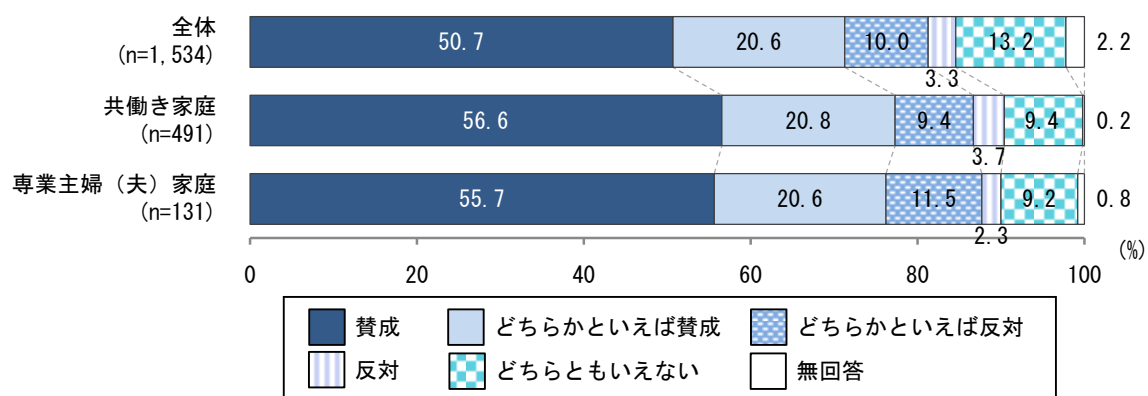
性年代別にみると、男女ともに『賛成』は年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

【図表2-3-2 結婚は個人の自由である。人は結婚してもしなくてもどちらでもよい(地域別)】



地域別にみると、『賛成』は美作県民局管内で7割台半ばと高くなっている。

【図表2-3-3 結婚は個人の自由である。人は結婚してもしなくてもどちらでもよい(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表2-3-4 結婚は個人の自由である。人は結婚してもしなくてもどちらでもよい(経年比較)】

(単位:%)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H12	23.2	16.4	20.8	24.3	12.6	39.6	36.9
H16	20.8	15.2	26.6	22.5	12.5	36.0	35.0
H21	18.8	16.4	24.0	24.3	15.1	35.2	39.4
H26	21.5	17.8	24.0	22.7	12.8	39.3	35.5
R1	25.3	19.8	23.3	19.6	7.8	45.1	27.4
R6	50.7	20.6	13.2	10.0	3.3	71.3	13.4

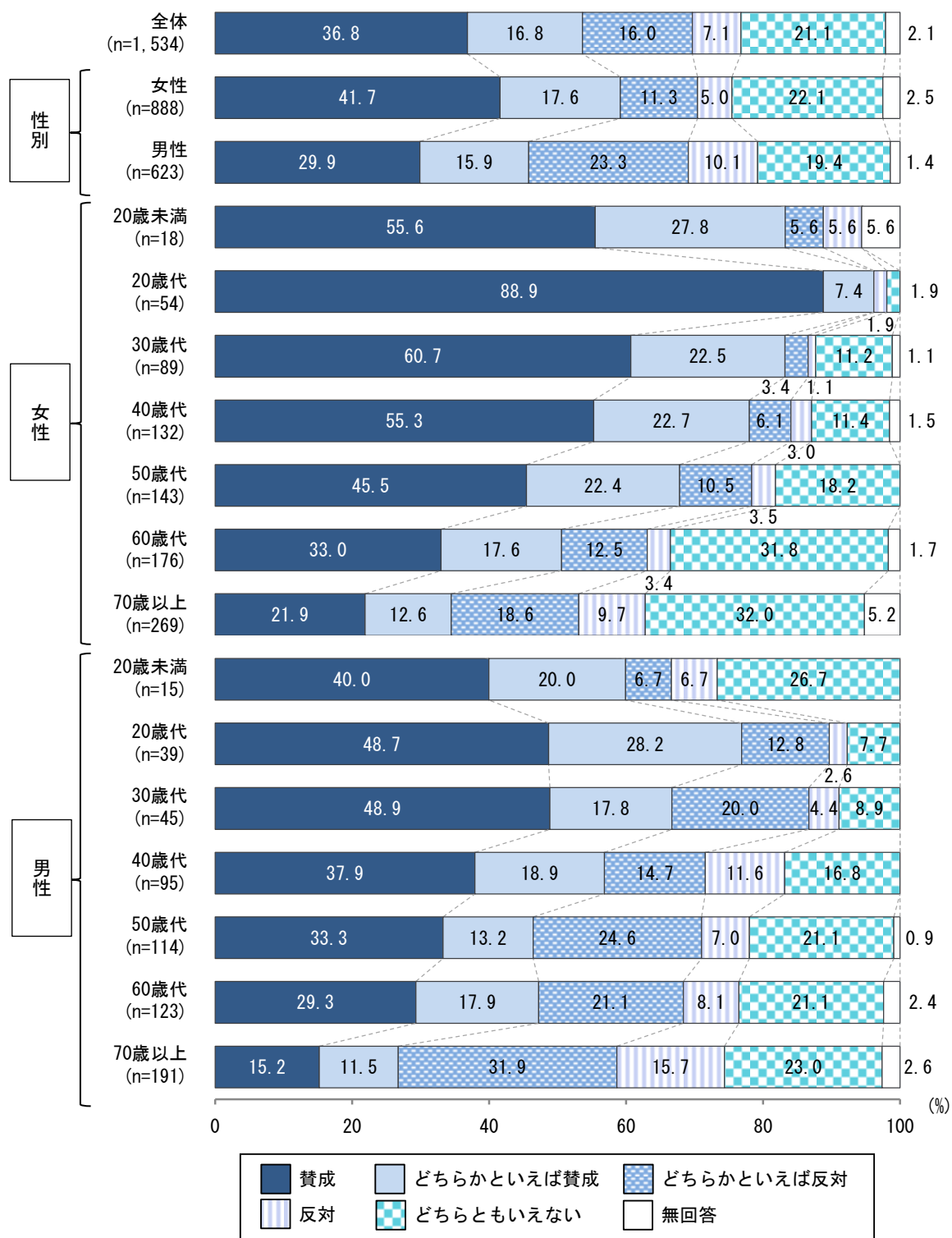
経年比較でみると、『賛成』は令和6年調査(71.3%)が令和元年調査(45.1%)を26.2ポイント上回っている。

※「結婚は個人の自由である。人は結婚してもしなくてもどちらでもよい」は、H12、H16、H21、H26、R1 調査では「結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい」となっている。

※図表2-3-4は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(d)結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

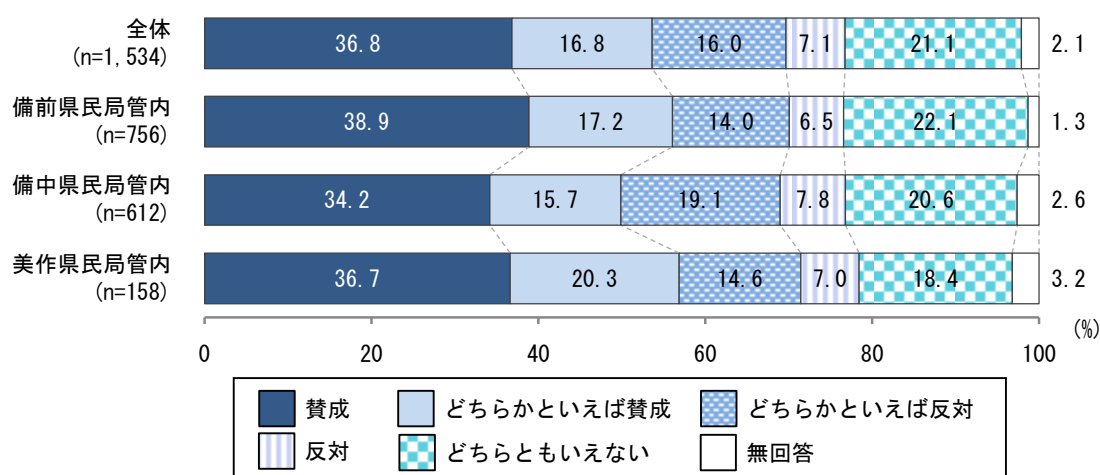
【図表2-4-1 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない(性別、性年代別)】



性別にみると、『賛成』は女性(59.3%)が男性(45.8%)を13.5ポイント上回っている。

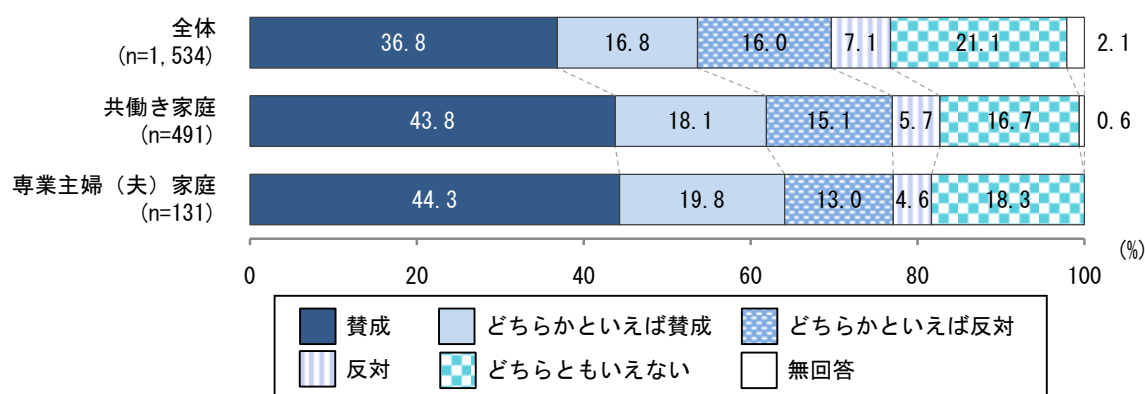
性年代別にみると、男女ともに『賛成』は20歳代以上で年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

【図表2-4-2 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない(地域別)】



地域別にみると、『賛成』は備前県民局管内及び美作県民局管内で5割台後半と高くなっている。

【図表2-4-3 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表2-4-4 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない(経年比較)】

(単位: %)

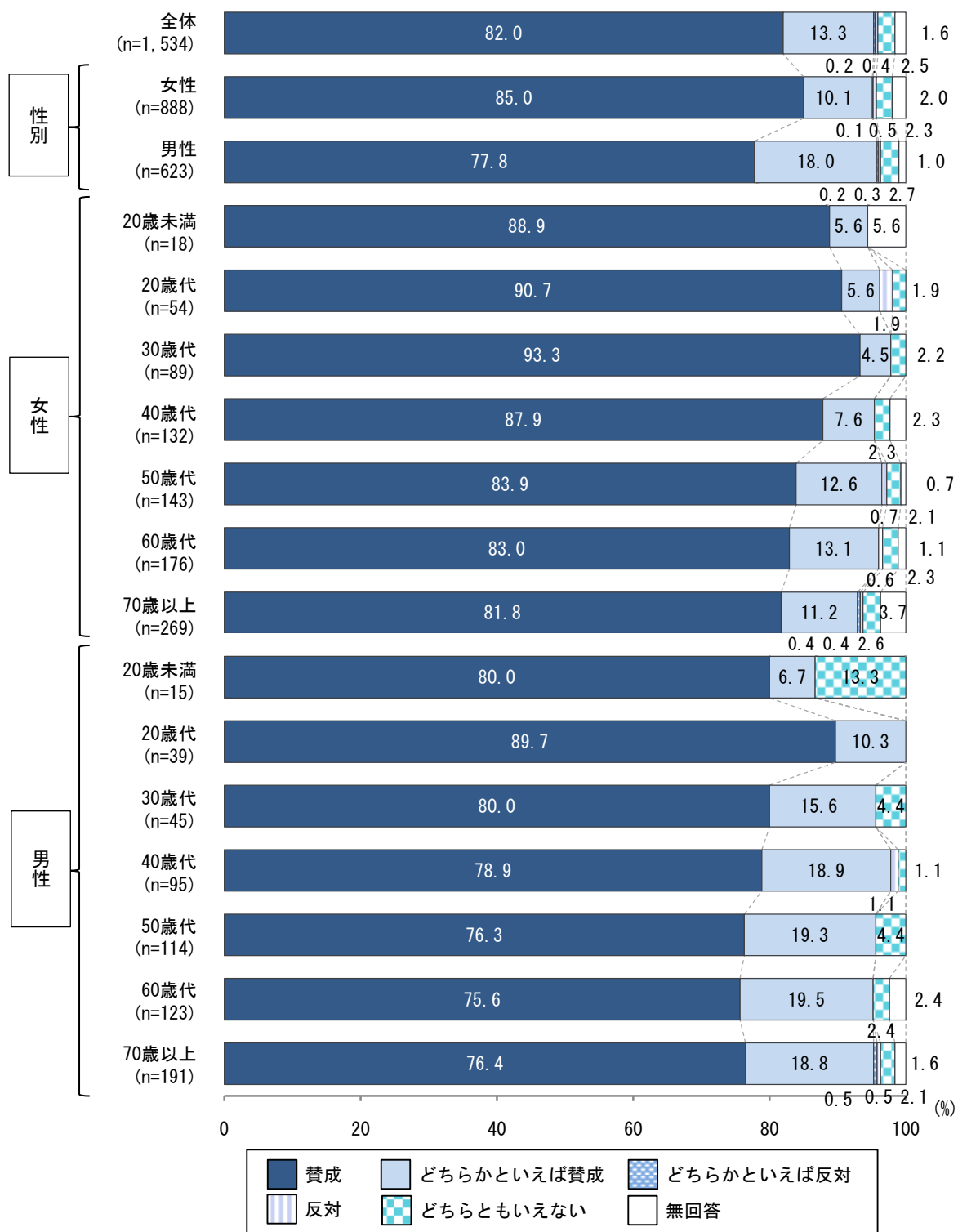
	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらとも いえない	どちらかとい えば反対	反対	賛成計	反対計
H12	16.4	10.6	20.0	27.5	23.1	27.0	50.6
H16	14.9	10.5	23.1	25.2	23.9	25.4	49.1
H21	16.0	12.6	21.1	26.4	22.4	28.5	48.9
H26	18.3	16.7	23.7	23.7	16.4	35.1	40.1
R1	22.9	18.0	26.6	19.1	9.7	40.9	28.8
R6	36.8	16.8	21.1	16.0	7.1	53.7	23.1

経年比較でみると、『賛成』は令和6年調査(53.7%)が令和元年調査(40.9%)を 12.8 ポイント上回っている。

※図表2-4-4は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(e)夫も妻も家庭責任はともにもつべきである

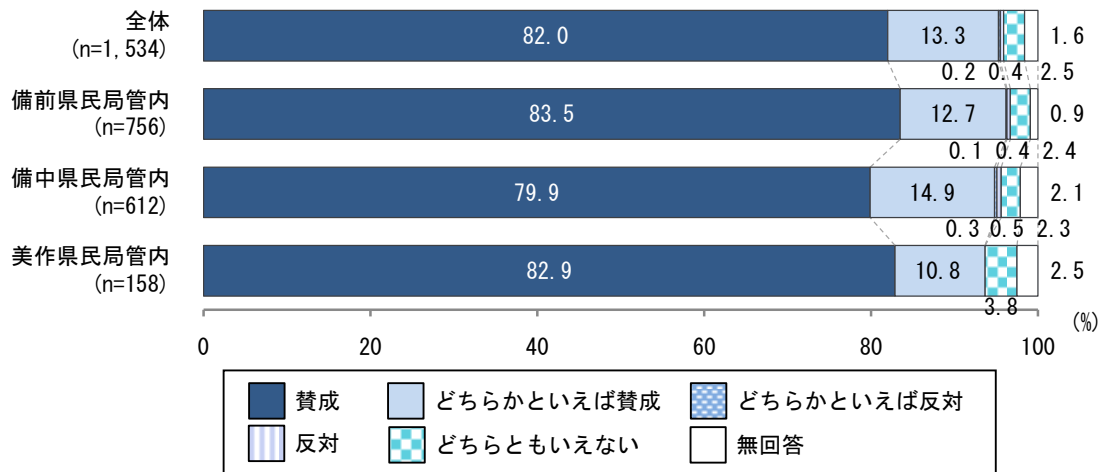
【図表2-5-1 夫も妻も家庭責任はともにもつべきである(性別、性年代別)】



性別にみると、大きな差はみられない。

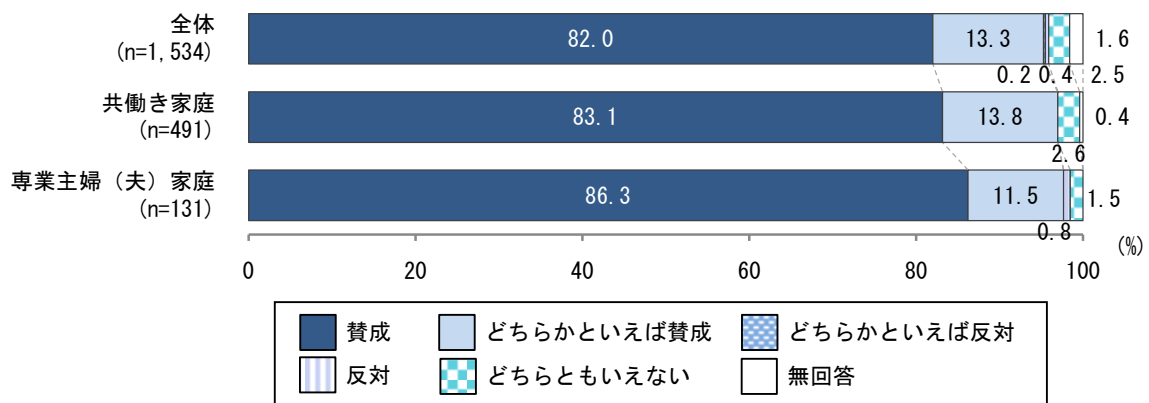
性年代別にみると、『賛成』は女性は20歳代～30歳代で9割台、男性は20歳代では100%と高くなっている。

【図表2-5-2 夫も妻も家庭責任はともにすべきである(地域別)】



地域別にみると、すべての地域で『賛成』は9割台と高くなっている。

【図表2-5-3 夫も妻も家庭責任はともにすべきである(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表2-5-4 夫も妻も家庭責任はともにすべきである(経年比較)】

(単位: %)

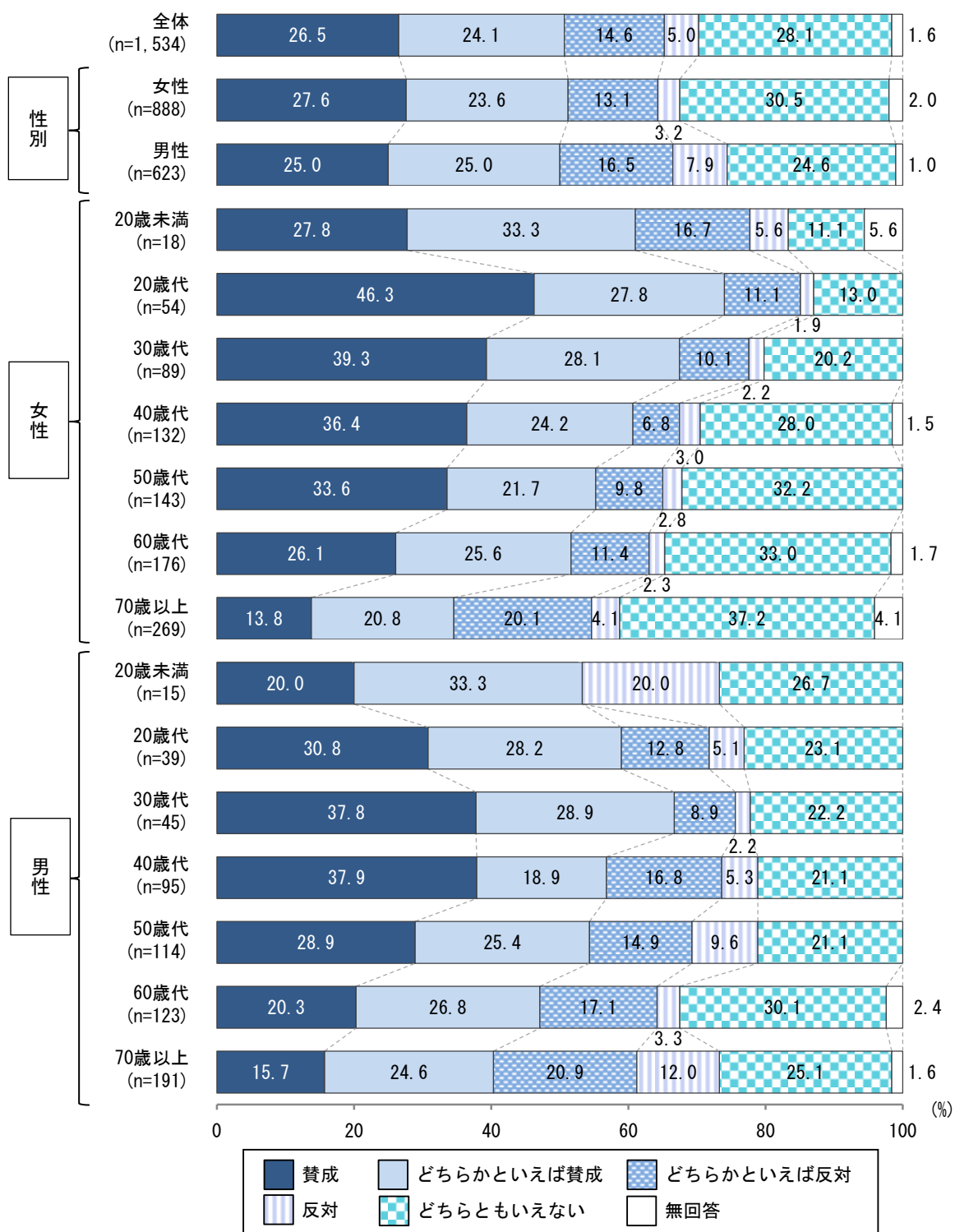
	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらとも いえない	どちらかとい えば反対	反対	賛成計	反対計
H12	82.4	11.3	2.6	0.6	0.3	93.7	0.9
H16	84.1	11.1	1.9	0.5	0.6	95.2	1.1
H21	84.4	12.3	1.3	0.3	0.5	96.7	0.7
H26	84.1	13.0	1.2	0.6	0.3	97.1	0.9
R1	78.7	14.6	2.2	0.5	0.3	93.3	0.8
R6	82.0	13.3	2.5	0.2	0.4	95.3	0.6

経年比較でみると、『賛成』と『反対』の割合はほぼ横ばいで、大きな差はみられない。

※図表2-5-4は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(f)結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

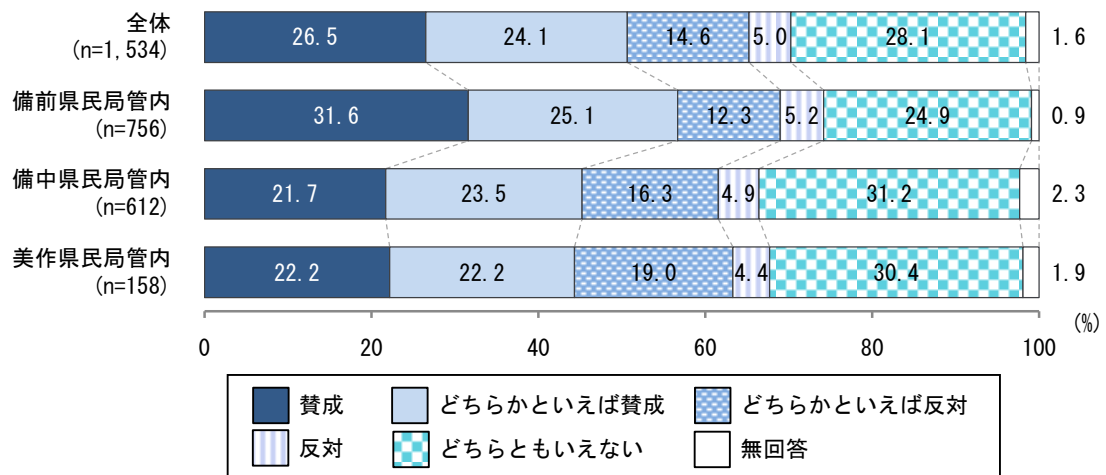
【図表2-6-1 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(性別、性年代別)】



性別にみると、『賛成』は女性(51.2%)が男性(50.0%)を 1.2 ポイント上回っている。一方、『反対』は男性(24.4%)が女性(16.3%)を 8.1 ポイント上回っている。

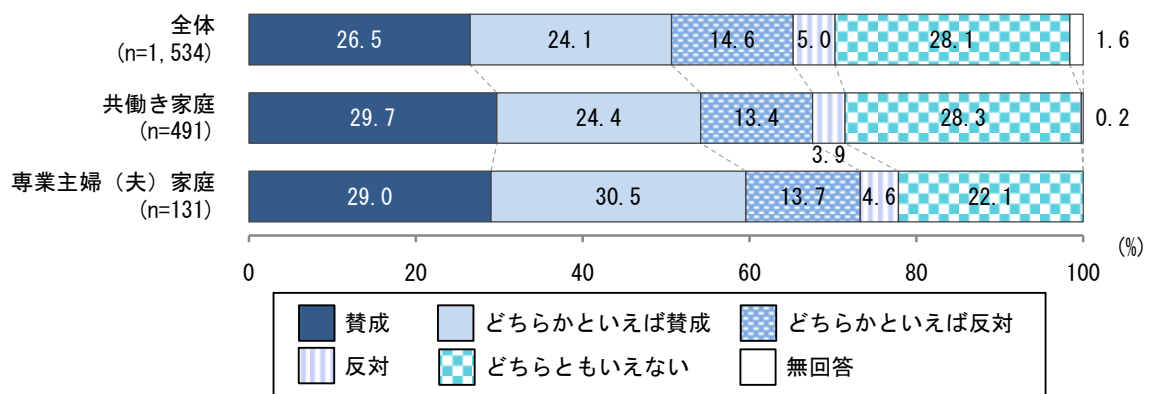
性年代別にみると、『賛成』は女性は 20 歳代、男性は 30 歳代から割合が低くなる傾向がみられる。

【図表2-6-2 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(地域別)】



地域別にみると、『賛成』は備前県民局管内で5割台半ばと高くなっている。

【図表2-6-3 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(就労状況別)】



就労状況別にみると、『賛成』は専業主婦(夫)家庭(59.5%)が共働き家庭(54.1%)を 5.4 ポイント上回っており、「どちらともいえない」は共働き家庭(28.3%)が専業主婦(夫)家庭(22.1%)を 6.2 ポイント上回っている。

【図表2-6-4 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(経年比較)】

(単位:%)

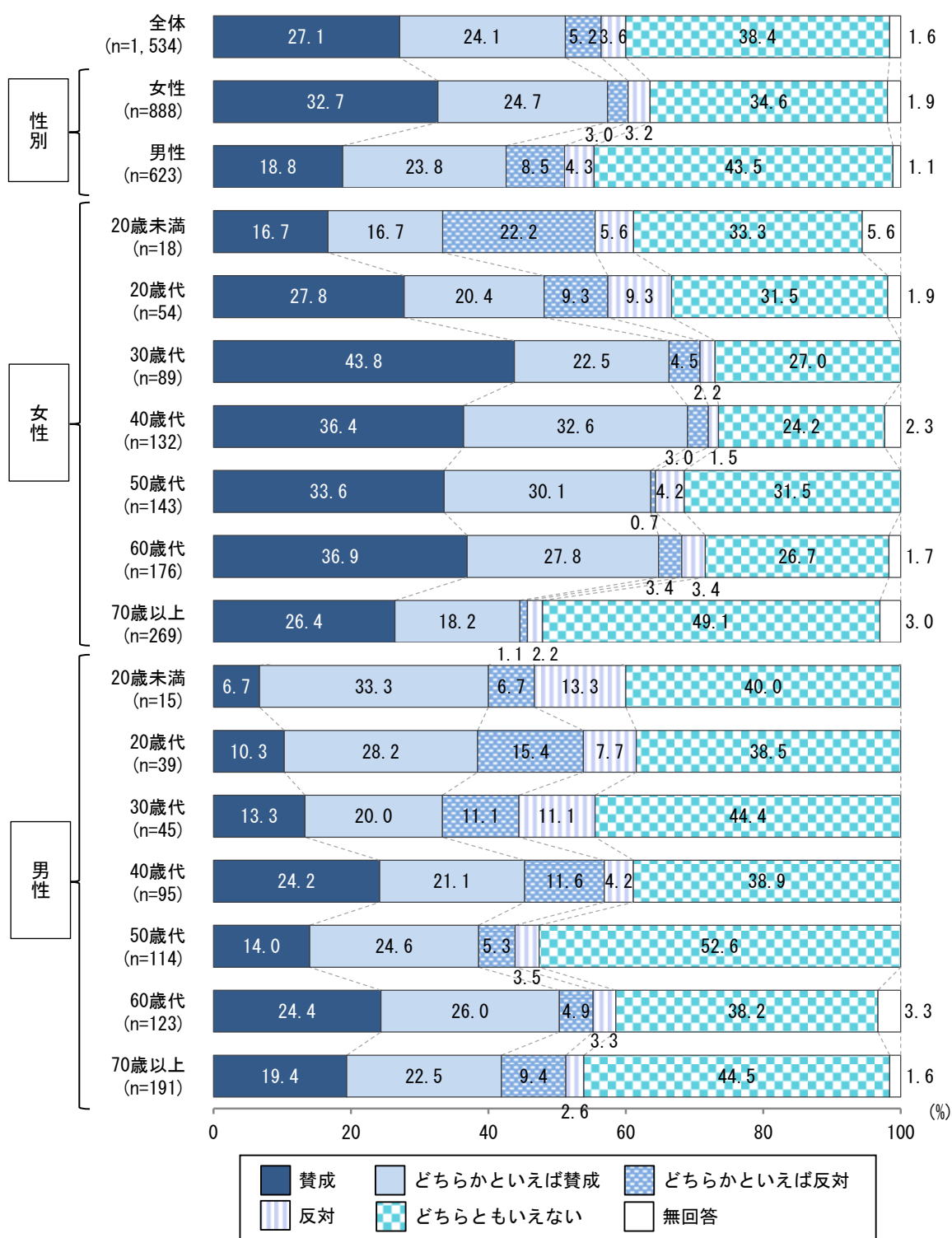
	賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらとも いえない	どちらかといえ ば反対	反対	賛成計	反対計
H12	15.1	15.7	27.5	25.0	14.6	30.8	39.6
H16	14.2	16.6	27.5	24.4	15.2	30.8	39.6
H21	12.1	17.8	25.8	27.7	15.1	29.9	42.8
H26	12.7	16.1	29.1	26.6	14.4	28.8	41.0
R1	15.2	23.3	29.6	21.8	6.1	38.5	27.9
R6	26.5	24.1	28.1	14.6	5.0	50.7	19.6

経年比較でみると、『賛成』は令和6年調査(50.7%)が令和元年調査(38.5%)を 12.2 ポイント上回っている。

※図表2-6-4は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(g)一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である

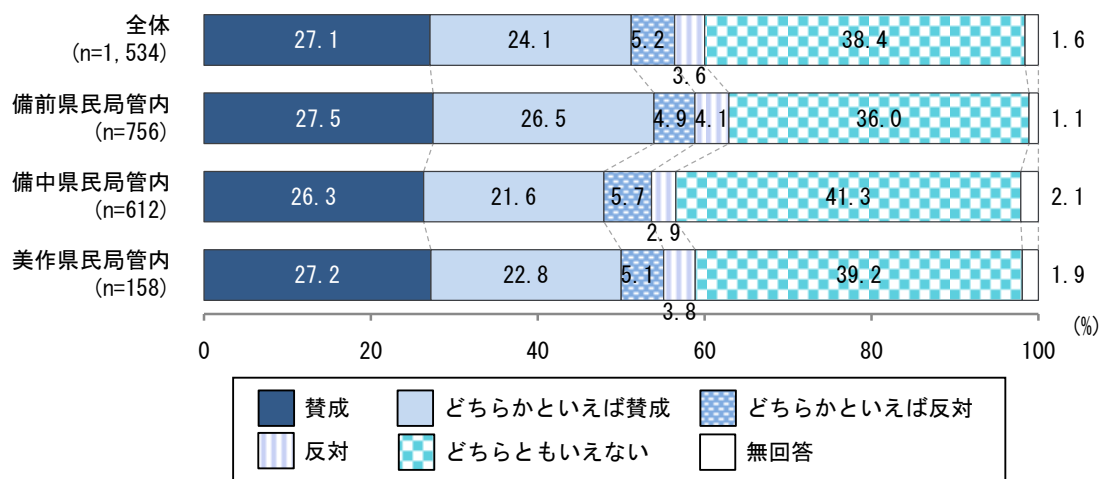
【図表2-7-1 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である(性別、性年代別)】



性別にみると、『賛成』は女性(57.4%)が男性(42.6%)を14.8ポイント上回っている。

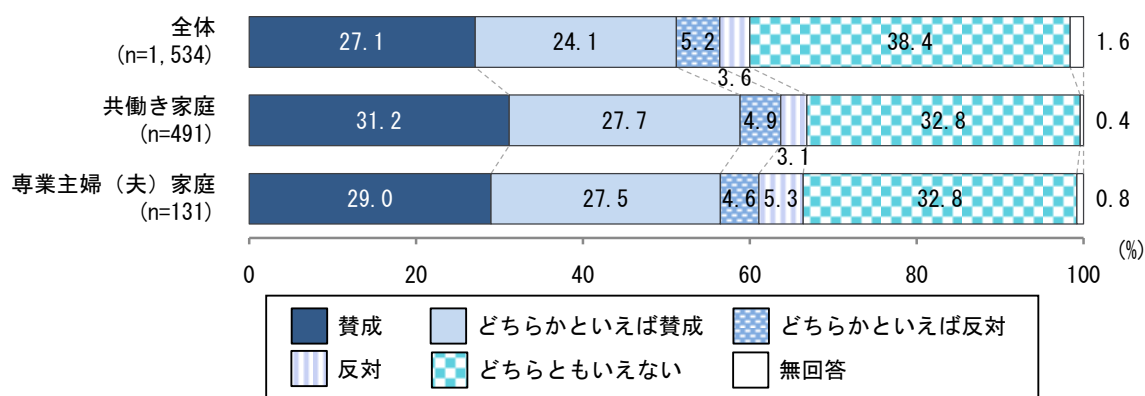
性年代別にみると、『賛成』は女性は30歳代～60歳代で6割台、男性は60歳代で約5割と高くなっている。

【図表2-7-2 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である(地域別)】



地域別にみると、すべての地域で『賛成』は5割前後、『反対』は1割弱となっている。

【図表2-7-3 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表2-7-4 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である(経年比較)】

(単位: %)

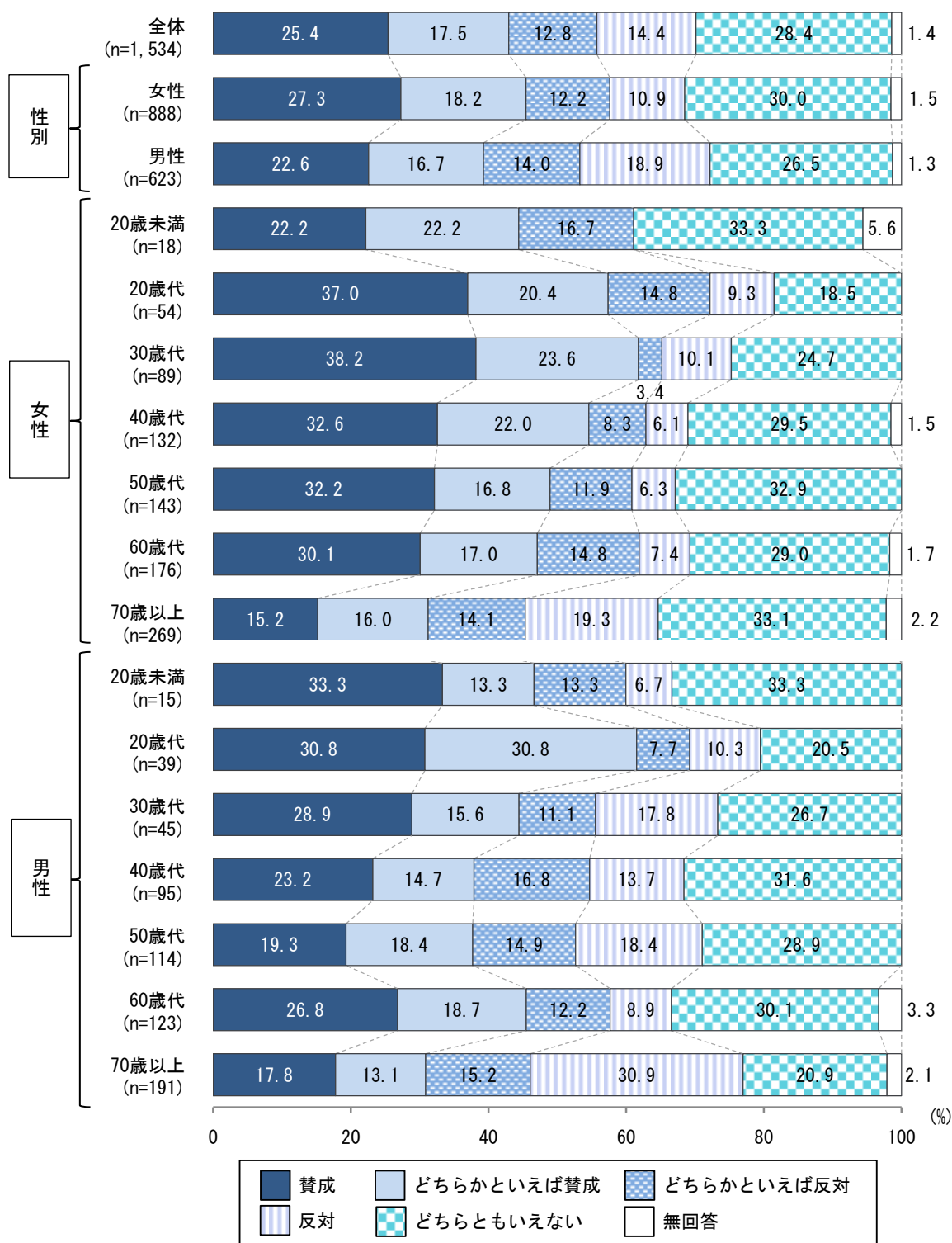
	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらとも いえない	どちらかとい えば反対	反対	賛成計	反対計
H12	27.6	17.1	44.5	3.8	4.9	44.7	8.7
H16	27.8	20.0	42.9	4.0	2.8	47.8	6.8
H21	25.4	21.3	43.4	4.2	4.0	46.8	8.1
H26	23.6	22.4	43.9	4.9	4.2	46.0	9.1
R1	23.2	24.6	40.6	4.3	3.3	47.8	7.6
R6	27.1	24.1	38.4	5.2	3.6	51.2	8.8

経年比較でみると、大きな差はみられない。

※図表2-7-4は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(h)夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい

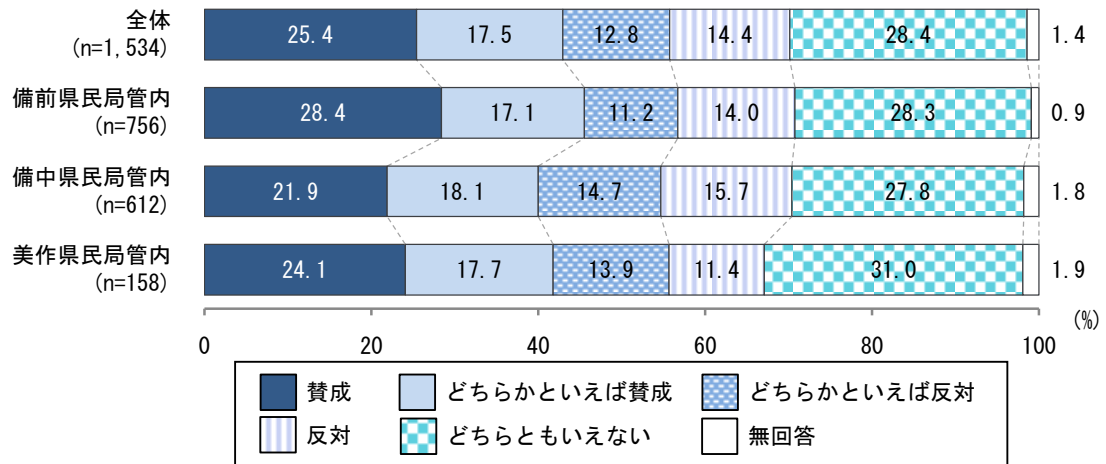
【図表2-8-1 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい(性別、性年代別)】



性別にみると、『反対』は男性(32.9%)が女性(23.1%)を 9.8 ポイント上回っている。

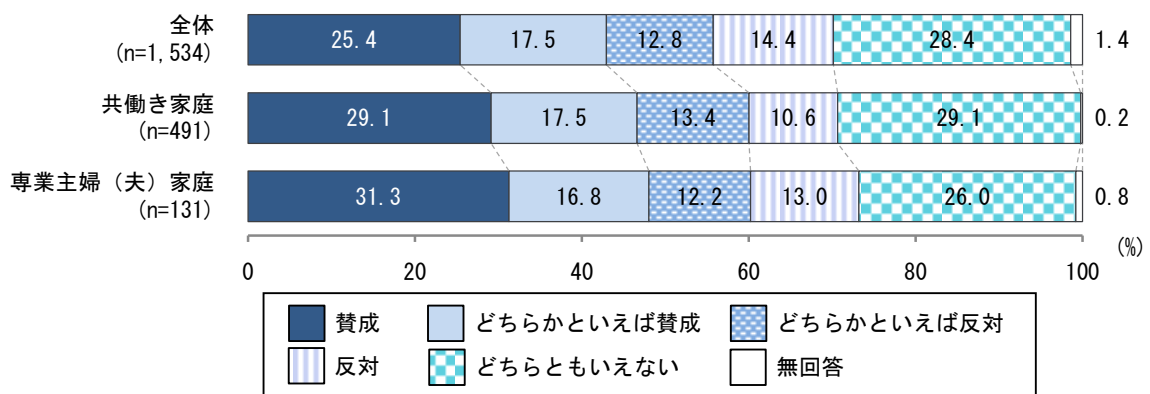
性年代別にみると、『賛成』は女性は 20 歳代～30 歳代で6割台、男性は 20 歳代で6割超と高くなっている。

【図表2-8-2 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい(地域別)】



地域別にみると、『賛成』は備前県民局管内で4割台半ば、『反対』は備中県民局管内で約3割と高くなっている。

【図表2-8-3 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表2-8-4 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい(経年比較)】

(単位: %)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H12	13.4	10.3	22.2	19.0	33.6	23.7	52.6
H16	14.7	10.6	21.3	18.7	33.0	25.3	51.7
H21	13.0	12.1	23.3	18.9	31.3	25.2	50.1
H26	13.8	13.6	25.0	19.6	27.3	27.3	46.8
R1	19.3	17.4	25.0	18.2	16.7	36.7	34.9
R6	25.4	17.5	28.4	12.8	14.4	42.9	27.2

経年比較でみると、『賛成』は増加傾向にあり、『反対』は減少傾向にある。

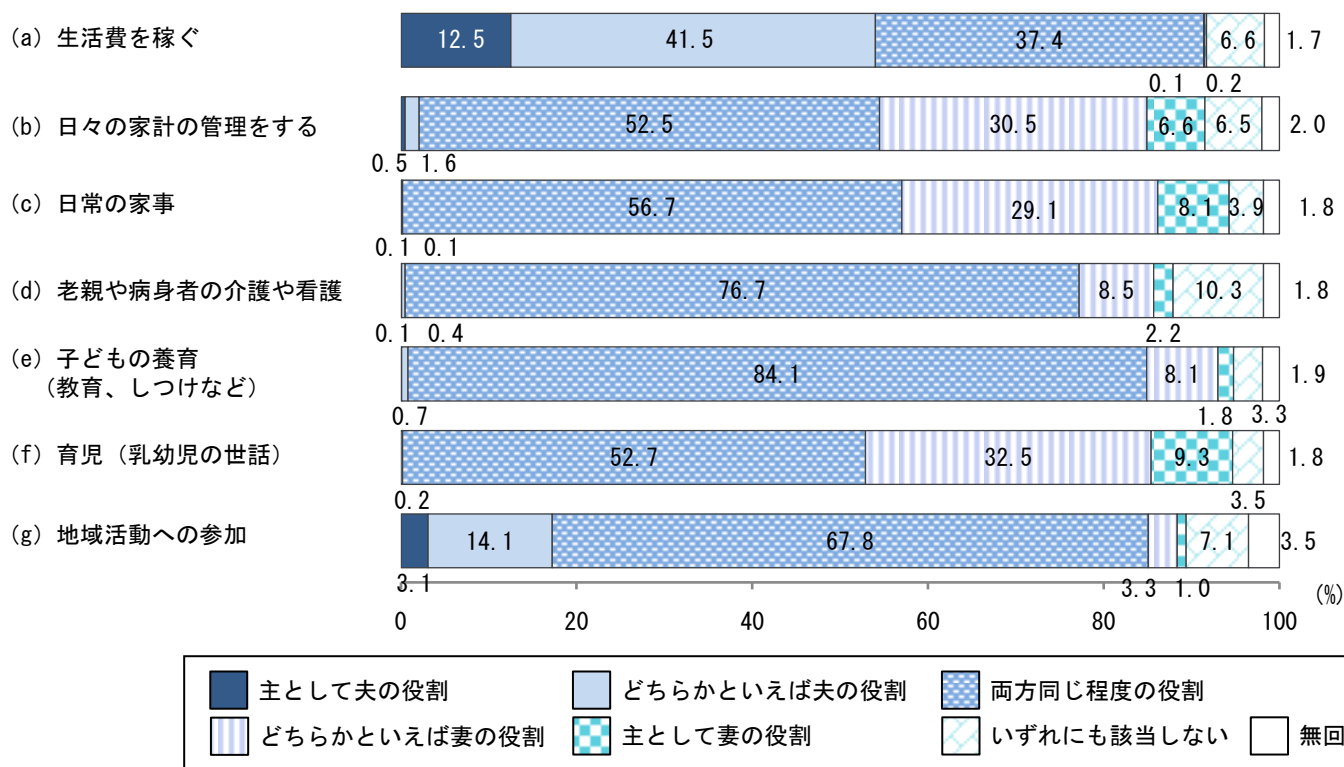
※図表2-8-4は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(3) 家庭での役割についての考え方

問3 家庭での役割について、あなたはどのようにお考えですか。配偶者のいない方についても、次のような日常的なことが、どなたの役割だとお考えになるかお答えください。
((a)～(g)でそれぞれ1つだけ✓)

【図表3-1 家庭での役割についての考え方】

(n=1,534)



「日々の家計の管理」、「日常の家事」、「育児（乳幼児の世話）」は妻の役割、「生活費を稼ぐ」は夫の役割との認識が強い

家庭での役割についての考え方について、「生活費を稼ぐ」は『夫の役割』（「主として夫の役割」+「どちらかといえば夫の役割」）が54.0%と高くなっている。

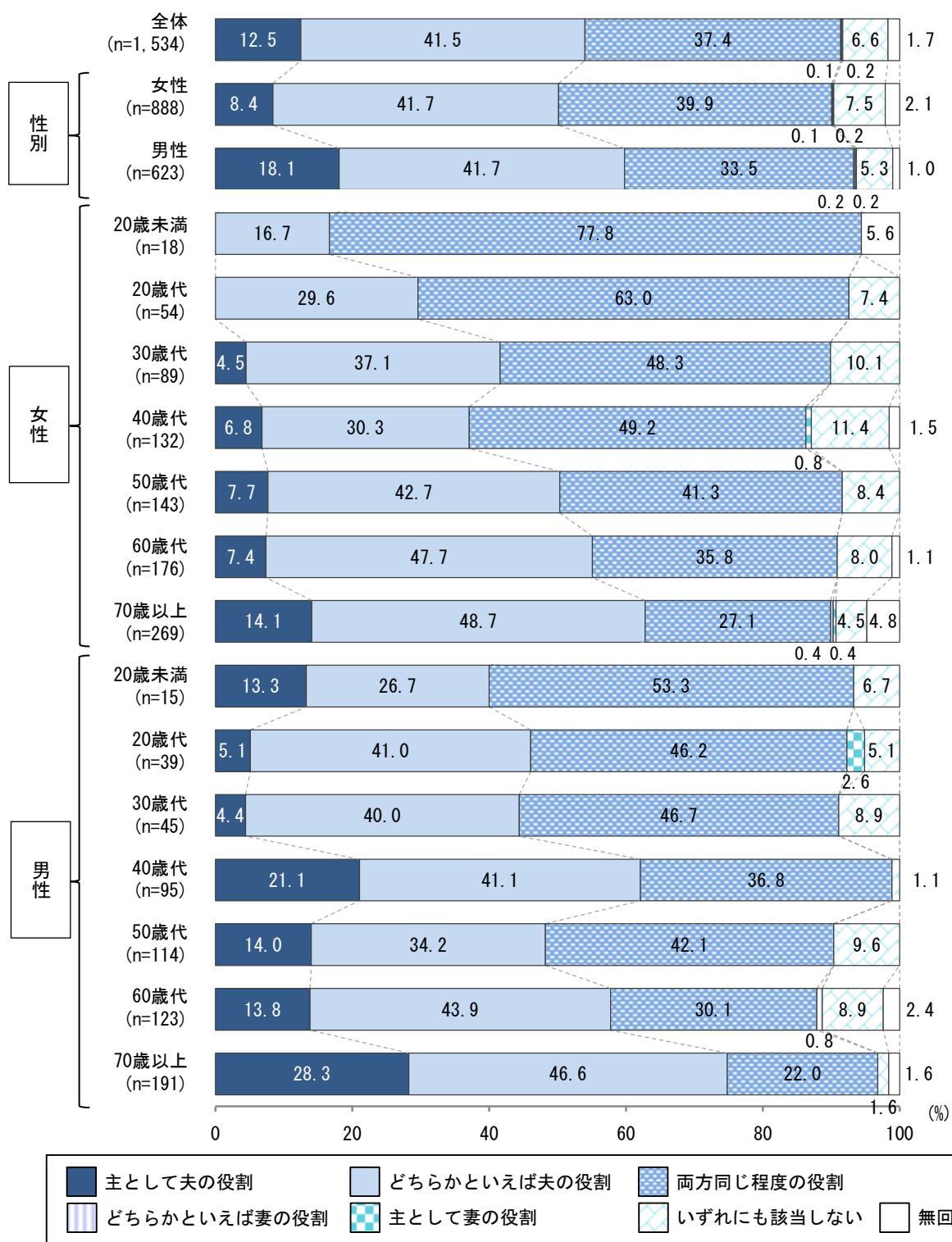
一方、「日々の家計の管理をする」、「日常の家事」、「育児（乳幼児の世話）」は『妻の役割』（「主として妻の役割」+「どちらかといえば妻の役割」）が4割程度となっている。

また、「子どもの養育（教育、しつけなど）」は、「両方同じ程度の役割」が8割台半ばとなっている。

※「家庭での役割について、あなたはどのようにお考えですか。」について、H12、H16、H21、H26 調査では「家庭の仕事の役割について、あなたはどのようにお考えですか。」と聞いている。

(a)生活費を稼ぐ

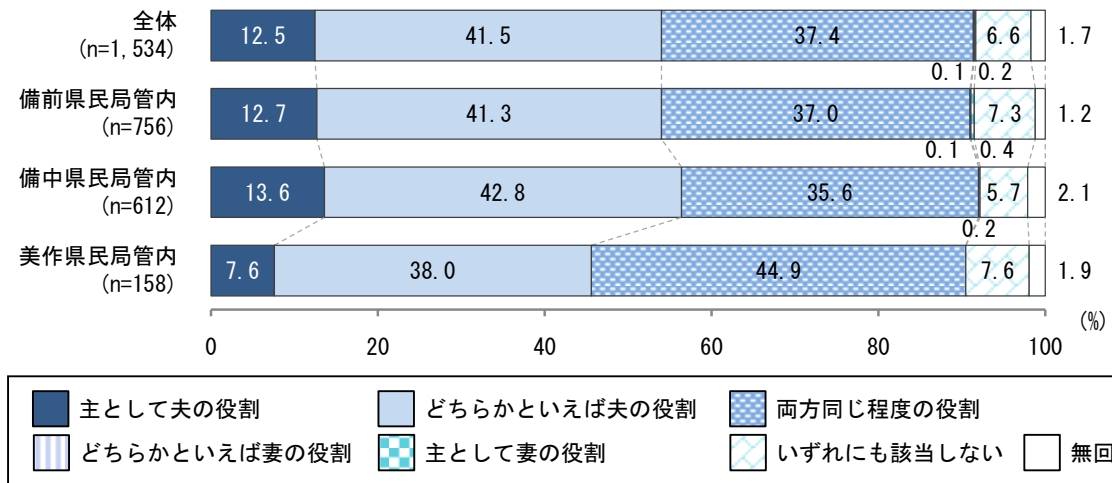
【図表3-1-1 生活費を稼ぐ(性別、性年代別)】



性別にみると、『夫の役割』は男性(59.8%)が女性(50.1%)を 9.7 ポイント上回っている。

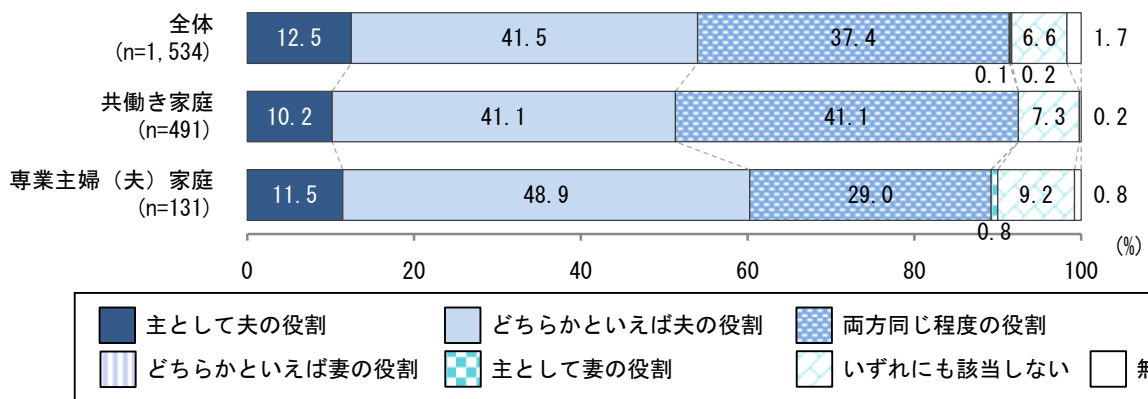
性年代別にみると、『夫の役割』は女性は 70 歳以上で6割超、男性は 70 歳以上で7割台半ばと高くなっている。

【図表3-1-2 生活費を稼ぐ(地域別)】



地域別にみると、『夫の役割』は備中県民局管内(56.4%)が最も高く、美作県民局管内(45.6%)が最も低くなっており、10.8 ポイントの差がある。「両方同じ程度の役割」は美作県民局管内で4割台半ばと高くなっている。

【図表3-1-3 生活費を稼ぐ(就労状況別)】



就労状況別にみると、「両方同じ程度の役割」は共働き家庭(41.1%)が専業主婦(夫)家庭(29.0%)を12.1 ポイント上回っている。

【図表3-1-4 生活費を稼ぐ(経年比較)】

(単位:%)

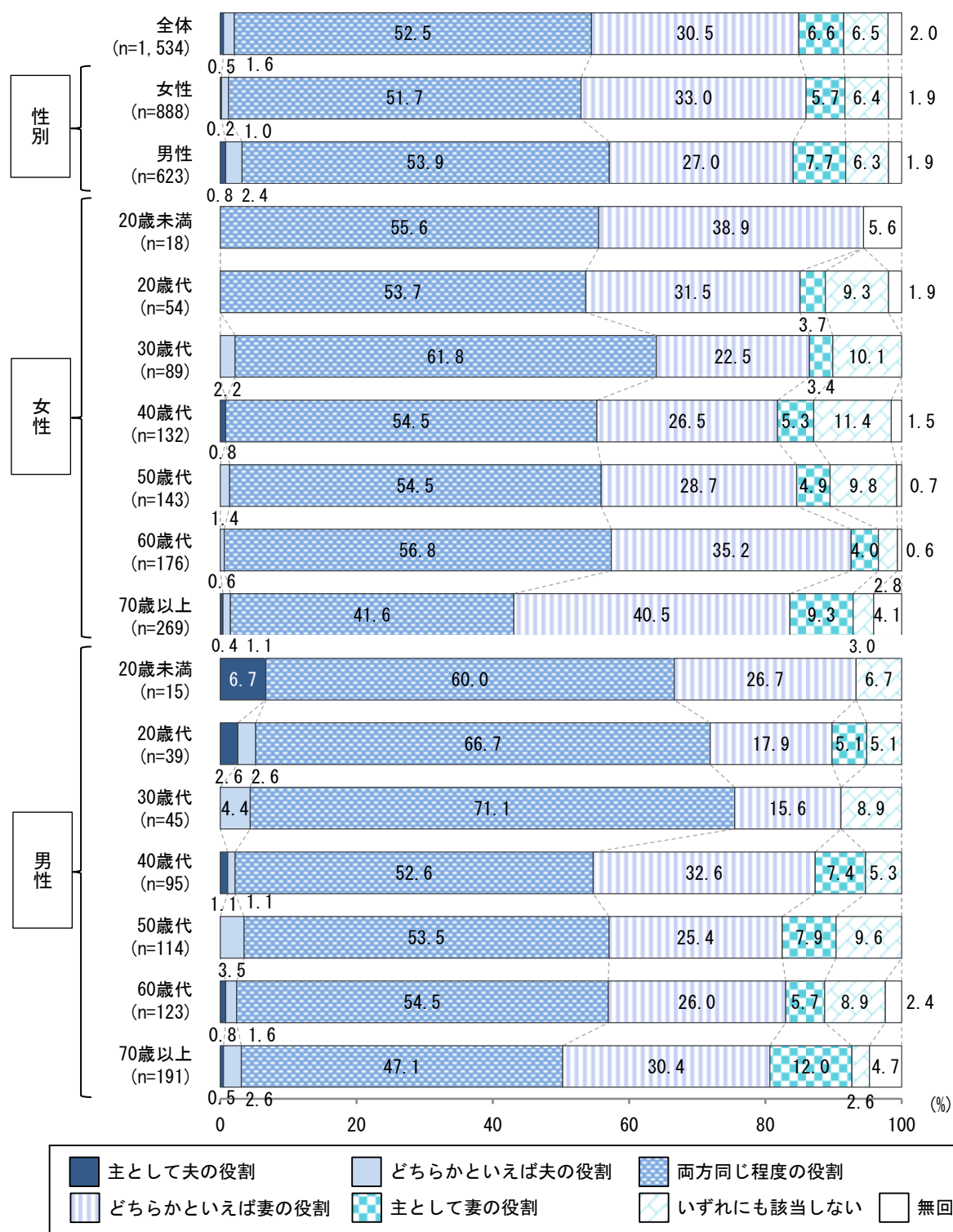
	主として夫 の役割	どちらかとい えば夫の 役割	両方同じ程 度の役割	どちらかとい えば妻の 役割	主として妻 の役割	夫の役割 計	妻の役割 計
H12	41.7	44.1	10.9	0.2	0.1	85.8	0.3
H16	31.6	49.1	14.4	0.1	0.1	80.7	1.5
H21	29.6	44.5	17.0	0.1	0.0	74.1	0.1
H26	23.3	51.1	21.1	0.1	0.0	74.4	0.1
R1	17.2	49.5	26.9	0.1	0.1	66.7	0.2
R6	12.5	41.5	37.4	0.1	0.2	54.0	0.3

経年比較でみると、「両方同じ程度の役割」は増加傾向にある。また、『夫の役割』は令和6年調査(54.0%)が令和元年調査(66.7%)を12.7ポイント下回っている。

※図表3-1-4は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

(b)日々の家計の管理をする

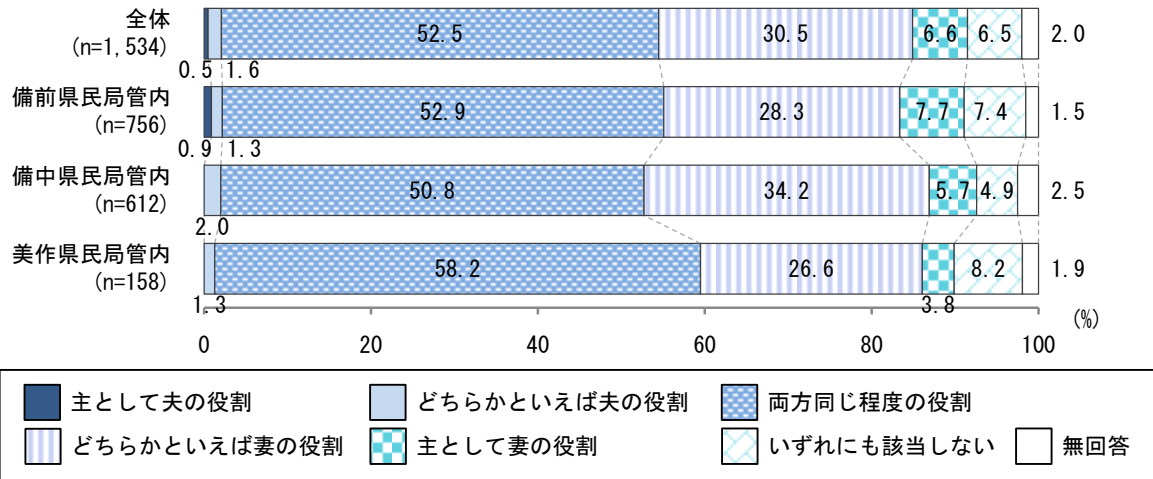
【図表3-2-1 日々の家計の管理をする(性別、性年代別)】



性別にみると、大きな差はみられない。

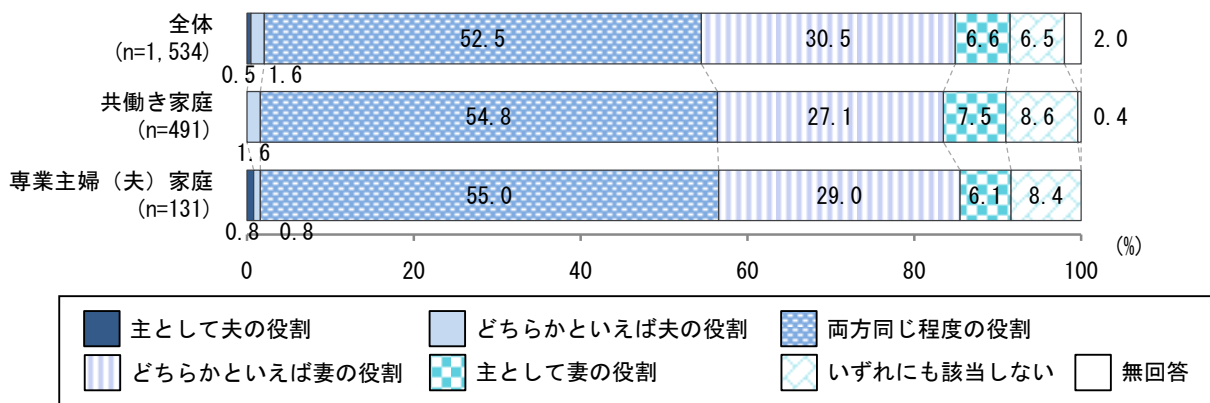
性年代別にみると、「両方同じ程度の役割」は男性の 20 歳代で6割台半ば、30 歳代で7割超と高くなっている。『妻の役割』は女性の 70 歳以上で約5割と高くなっている。

【図表3-2-2 日々の家計の管理をする(地域別)】



地域別にみると、「両方同じ程度の役割」は美作県民局管内で約6割、『妻の役割』は備中県民局管内で約4割と高くなっている。

【図表3-2-3 日々の家計の管理をする(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表3-2-4 日々の家計の管理をする(経年比較)】

(単位: %)

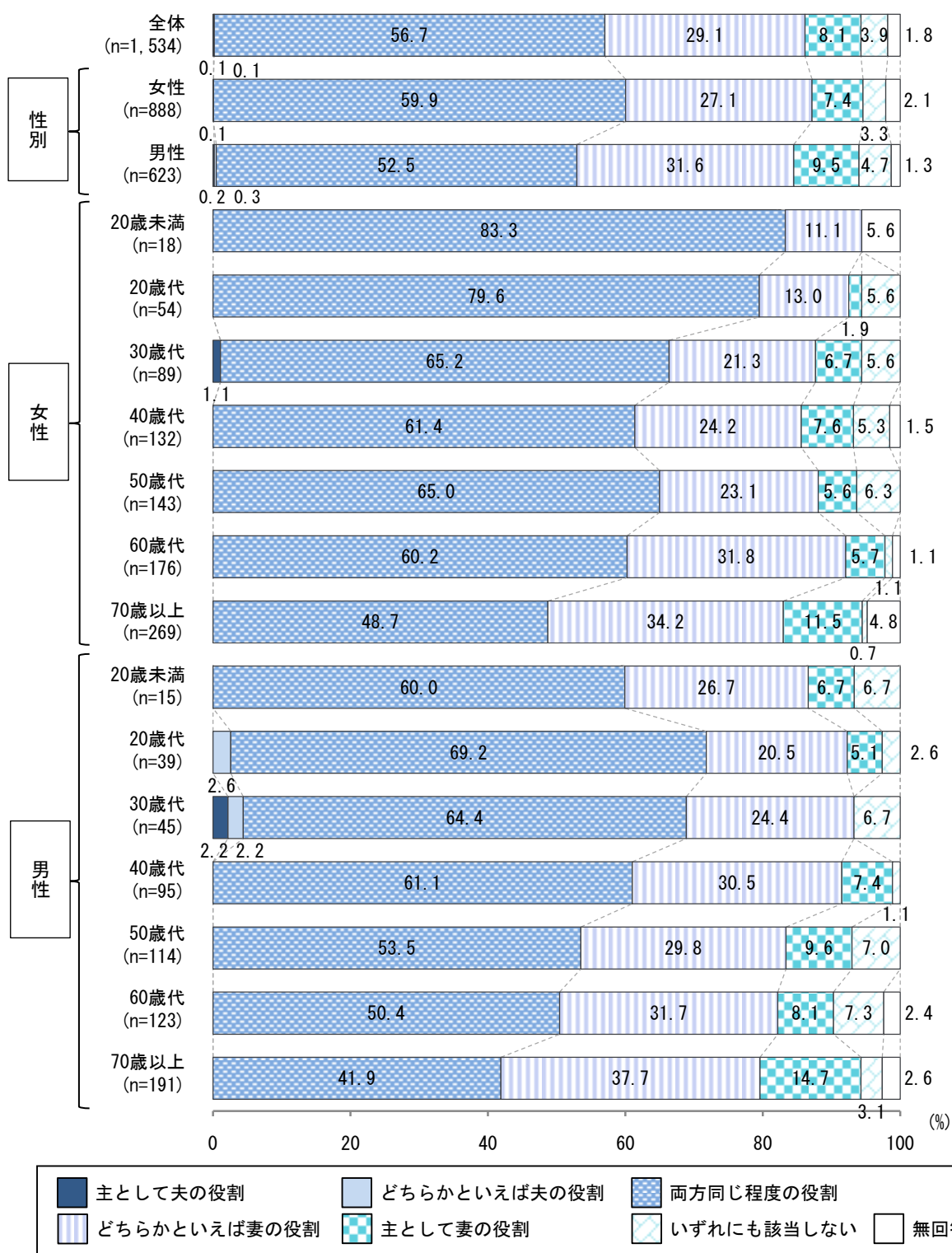
	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	0.8	0.9	18.6	47.2	28.8	1.7	76.0
H16	0.7	1.5	24.6	45.1	24.0	2.2	69.1
H21	1.0	1.3	29.9	38.1	20.8	2.3	58.9
H26	0.6	1.4	36.6	38.5	18.2	2.0	56.7
R1	0.8	2.0	40.3	39.0	11.4	2.8	50.4
R6	0.5	1.6	52.5	30.5	6.6	2.0	37.1

経年比較でみると「両方同じ程度の役割」は増加傾向にある。また、『妻の役割』は令和6年調査(37.1%)が令和元年調査(50.4%)を13.3ポイント下回っている。

※図表3-2-4は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

(c)日常の家事

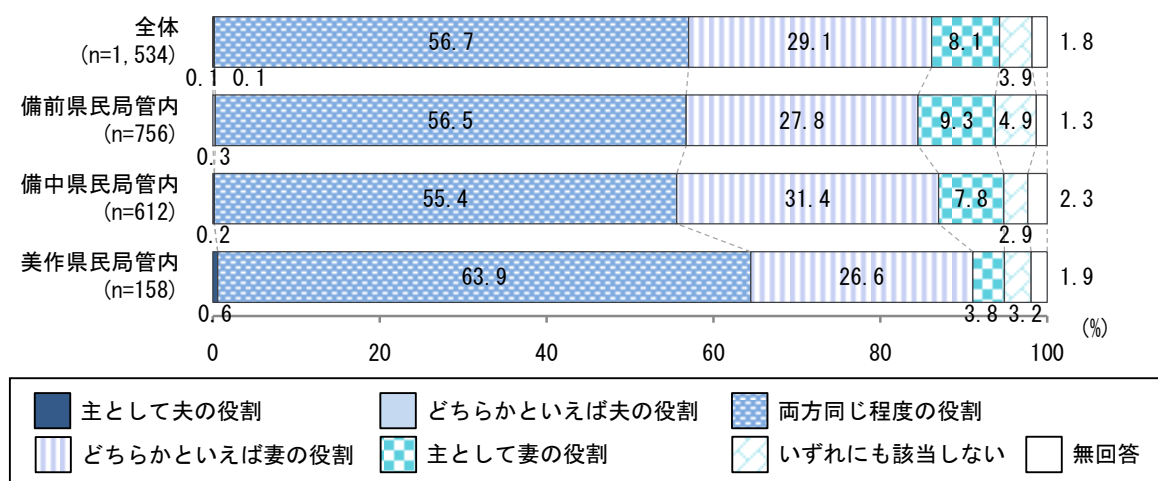
【図表3-3-1 日常の家事(性別、性年代別)】



性別にみると、「両方同じ程度の役割」は女性(59.9%)が男性(52.5%)を 7.4 ポイント上回っている。

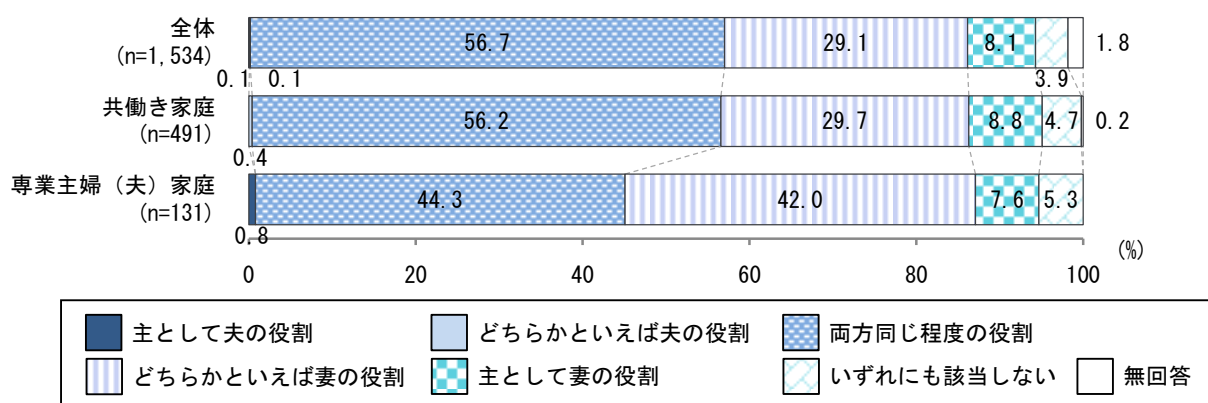
性年代別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて「両方同じ程度の役割」は低くなり、『妻の役割』が高くなる傾向がみられる。

【図表3-3-2 日常の家事(地域別)】



地域別にみると、「両方同じ程度の役割」は美作県民局管内で6割台半ば、『妻の役割』は備前県民局管内、備中県民局管内で約4割と高くなっている。

【図表3-3-3 日常の家事(就労状況別)】



就労状況別にみると、「両方同じ程度の役割」は共働き家庭(56.2%)が専業主婦(夫)家庭(44.3%)を11.9ポイント上回っている。

【図表3-3-4 日常の家事(経年比較)】

(単位:%)

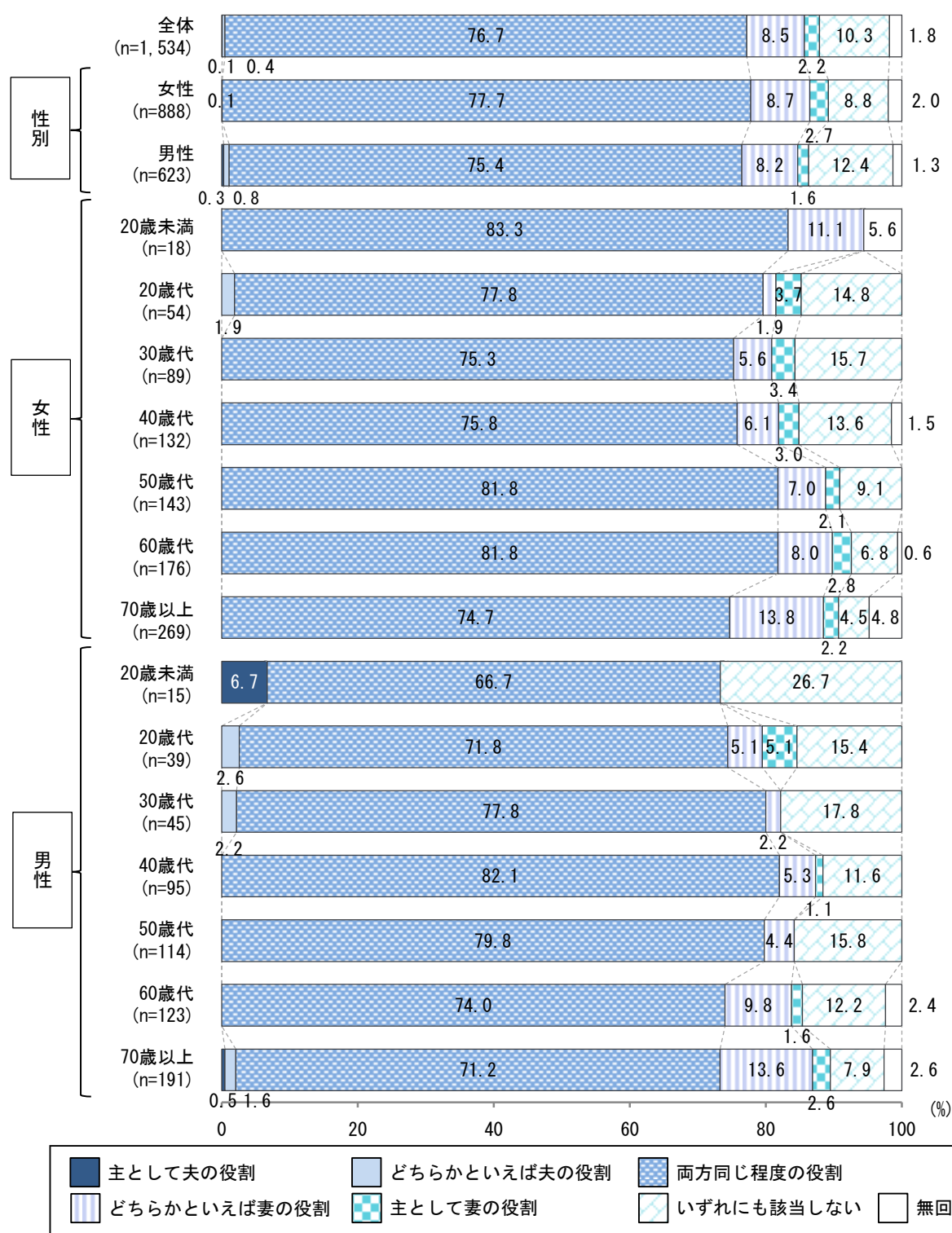
	主として夫 の役割	どちらかとい えば夫の 役割	両方同じ程 度の役割	どちらかとい えば妻の 役割	主として妻 の役割	夫の役割 計	妻の役割 計
H12	0.1	0.1	16.7	45.8	33.4	0.2	79.2
H16	0.1	0.2	22.8	45.4	26.4	0.3	71.8
H21	0.3	0.3	27.3	43.6	19.7	0.6	63.3
H26	0.2	0.1	35.7	43.5	16.9	0.4	60.4
R1	0.1	0.1	43.7	38.8	11.2	0.2	50.0
R6	0.1	0.1	56.7	29.1	8.1	0.3	37.3

経年比較でみると、「両方同じ程度の役割」は増加傾向にある。また、「両方同じ程度の役割」は令和6年調査(56.7%)が令和元年調査(43.7%)を13.0ポイント上回っている。

※図表3-3-4は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

(d)老親や病身者の介護や看護

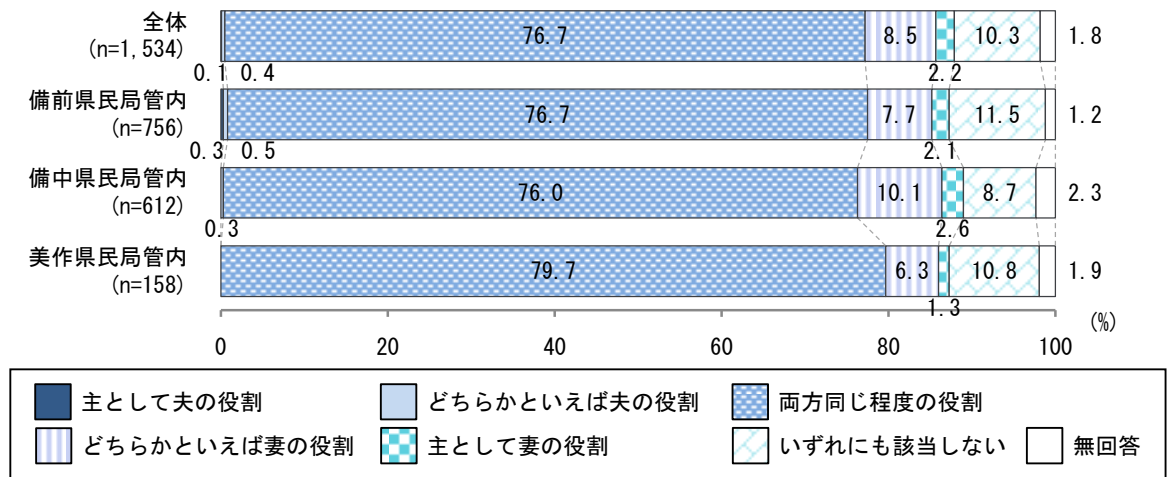
【図表3-4-1 老親や病身者の介護や看護(性別、性年代別)】



性別にみると、大きな差はみられない。

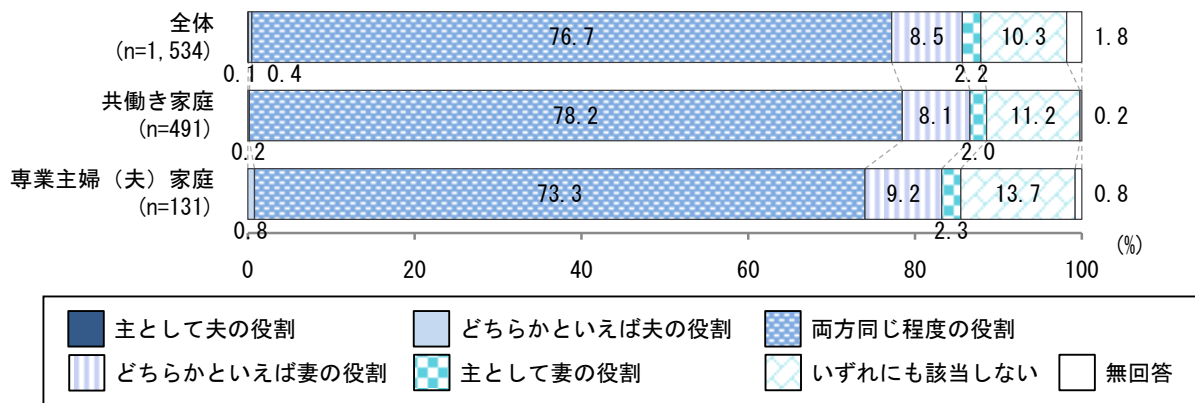
性年代別にみると、男女ともに「両方同じ程度の役割」がどの年代も最も高くなっている。

【図表3-4-2 老親や病身者の介護や看護(地域別)】



地域別にみると、「両方同じ程度の役割」はすべての地域で7割超となっており、大きな差はみられない。

【図表3-4-3 老親や病身者の介護や看護(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表3-4-4 老親や病身者の介護や看護(経年比較)】

(単位: %)

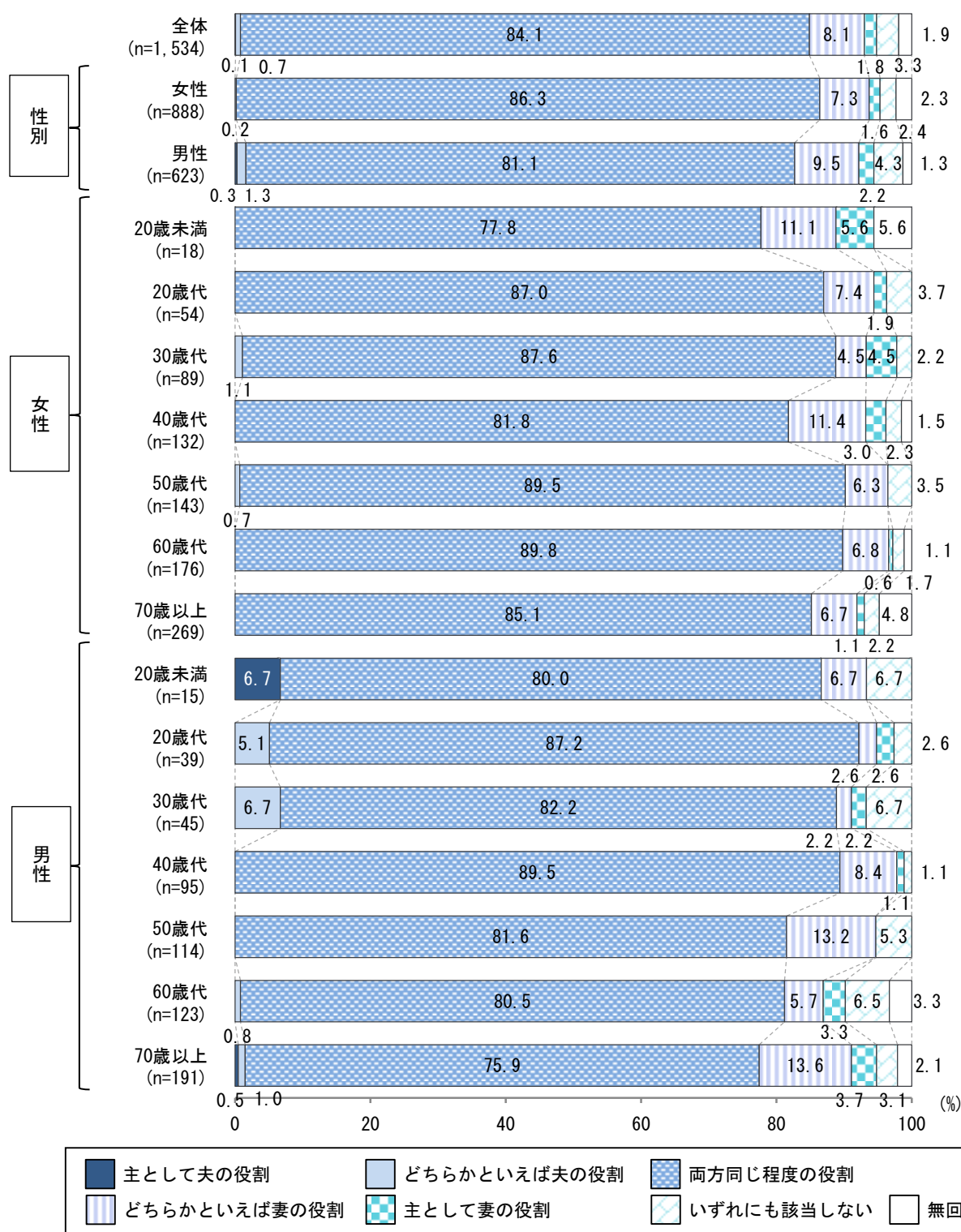
	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	0.2	0.2	51.1	29.2	12.1	0.4	41.3
H16	0.2	0.2	61.3	23.5	7.5	0.4	31.0
H21	0.3	0.5	66.6	17.7	4.6	0.8	22.3
H26	0.2	0.1	72.1	17.3	3.5	0.4	20.9
R1	0.1	0.7	73.4	14.4	2.9	0.8	17.3
R6	0.1	0.4	76.7	8.5	2.2	0.5	10.8

経年比較でみると、「両方同じ程度の役割」は増加傾向にある。また、『妻の役割』は令和6年調査(10.8%)が令和元年調査(17.3%)を6.5ポイント下回っている。

※図表3-4-4は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

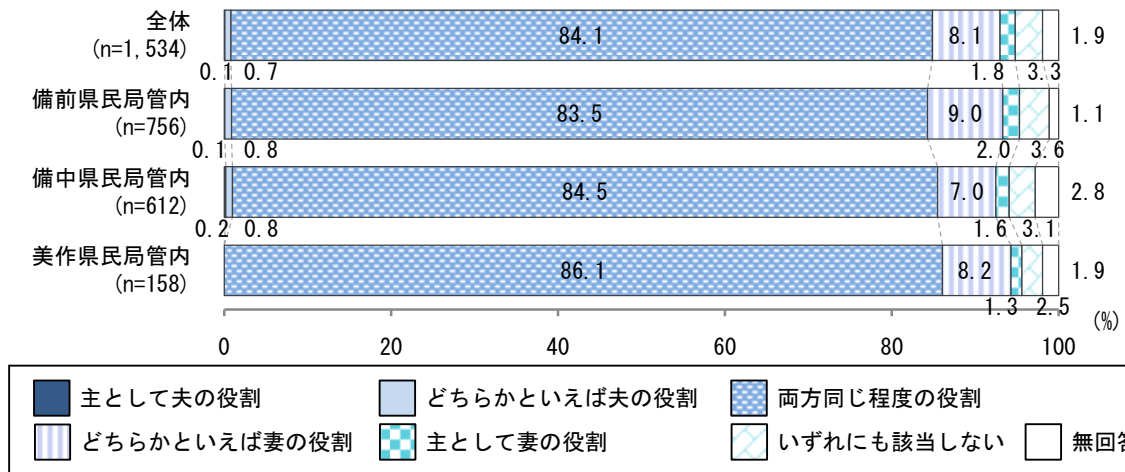
(e)子どもの養育(教育、しつけなど)

【図表3-5-1 子どもの養育(教育、しつけなど)(性別、性年代別)】



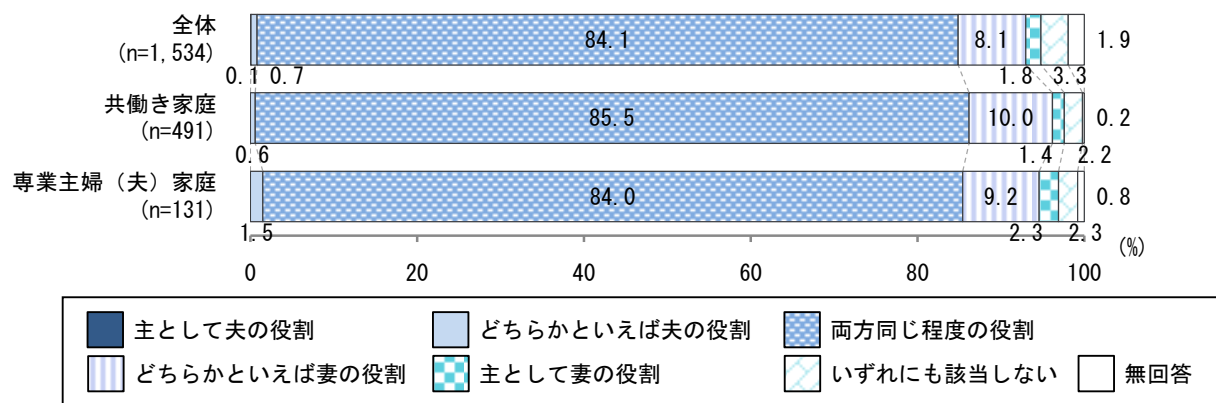
性別にみると、「両方同じ程度の役割」は女性(86.3%)が男性(81.1%)を 5.2 ポイント上回っている。
性年代別にみると、男女ともに「両方同じ程度の役割」がどの年代も最も高くなっている。

【図表3-5-2 子どもの養育(教育、しつけなど)(地域別)】



地域別にみると、「両方同じ程度の役割」はすべての地域で8割台半ばとなっており、大きな差はみられない。

【図表3-5-3 子どもの養育(教育、しつけなど)(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表3-5-4 子どもの養育(教育、しつけなど)(経年比較)】

(単位:%)

	主として夫 の役割	どちらかとい えば夫の 役割	両方同じ程 度の役割	どちらかとい えば妻の 役割	主として妻 の役割	夫の役割 計	妻の役割 計
H12	0.5	1.2	72.0	16.1	6.3	1.7	22.4
H16	0.7	0.6	80.0	11.7	4.4	1.3	16.1
H21	0.7	1.1	77.4	10.3	2.9	1.8	13.2
H26	0.4	0.6	83.3	10.0	2.7	1.0	12.7
R1	0.2	0.8	80.0	10.8	2.9	1.0	13.7
R6	0.1	0.7	84.1	8.1	1.8	0.8	9.9

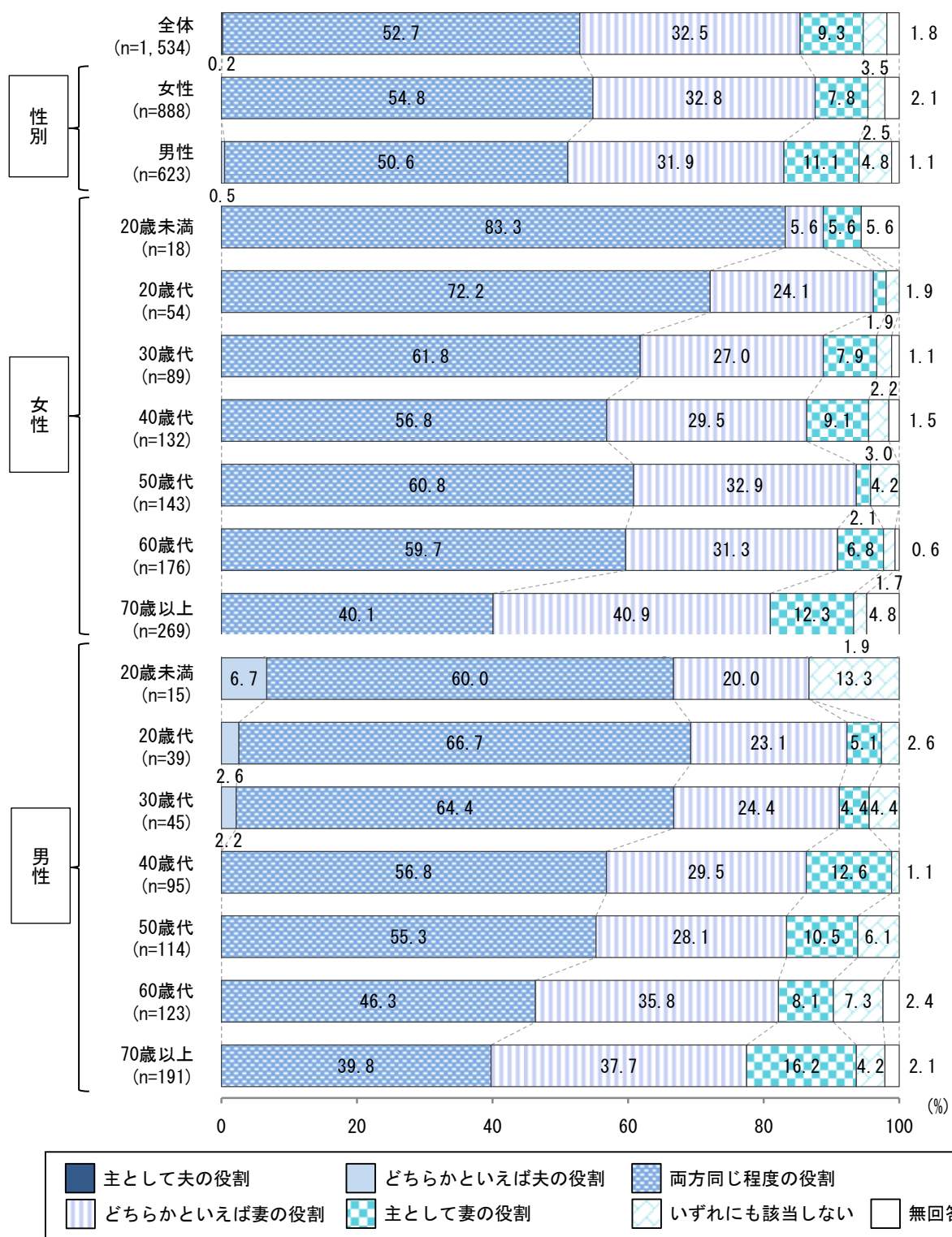
経年比較でみると、『夫の役割』及び『妻の役割』ともに減少傾向にある。また、「両方同じ程度の役割」は令和6年調査(84.1%)が令和元年調査(80.0%)を4.1ポイント上回っている。

※「子どもの養育(教育、しつけなど)」は、H12、H16、H21、H26、R1 調査では「子どもの教育としつけ」となっている。

※図表3-5-4は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

(f)育児(乳幼児の世話)

【図表3-6-1 育児(乳幼児の世話)(性別、性年代別)】

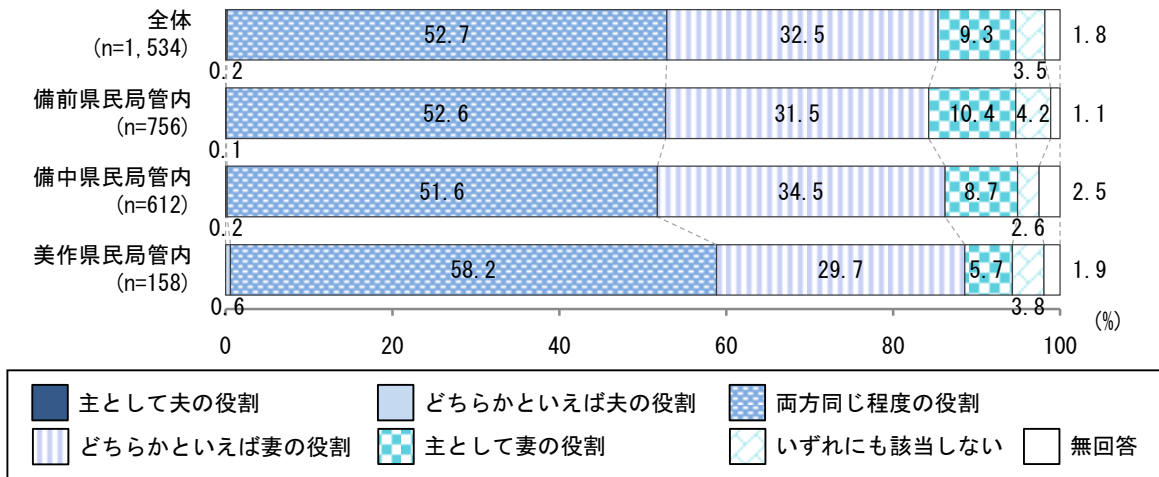


性別にみると、大きな差はみられない。

性年代別にみると、男女ともに「両方同じ程度の役割」は年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

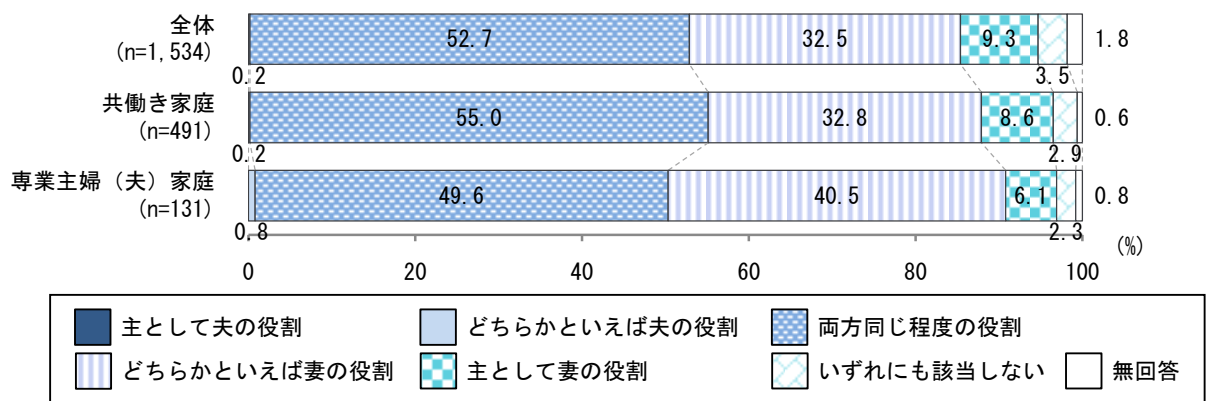
『妻の役割』は男女ともに 70 歳以上で5割台半ばと高くなっている。

【図表3-6-2 育児(乳幼児の世話)(地域別)】



地域別にみると、「両方同じ程度の役割」は美作県民局管内で約6割と高くなっている。『妻の役割』は備中県民局管内(43.2%)が最も高く、美作県民局管内(35.4%)が最も低くなっており、7.8 ポイントの差がある。

【図表3-6-3 育児(乳幼児の世話)(就労状況別)】



就労状況別にみると、「両方同じ程度の役割」は共働き家庭(55.0%)が専業主婦(夫)家庭(49.6%)を5.4 ポイント上回っている。

【図表3-6-4 育児(乳幼児の世話)(経年比較)】

(単位:%)

	主として夫 の役割	どちらかとい えば夫の 役割	両方同じ程 度の役割	どちらかとい えば妻の 役割	主として妻 の役割	夫の役割 計	妻の役割 計
H12	0.1	0.1	20.8	42.6	32.1	0.2	74.7
H16	0.0	0.2	35.4	40.0	20.9	0.2	60.9
H21	0.3	0.3	29.5	41.7	20.3	0.5	62.1
H26	0.1	0.0	33.5	44.4	18.9	0.1	63.3
R1	0.1	0.1	38.8	40.3	15.6	0.2	55.9
R6	-	0.2	52.7	32.5	9.3	0.2	41.8

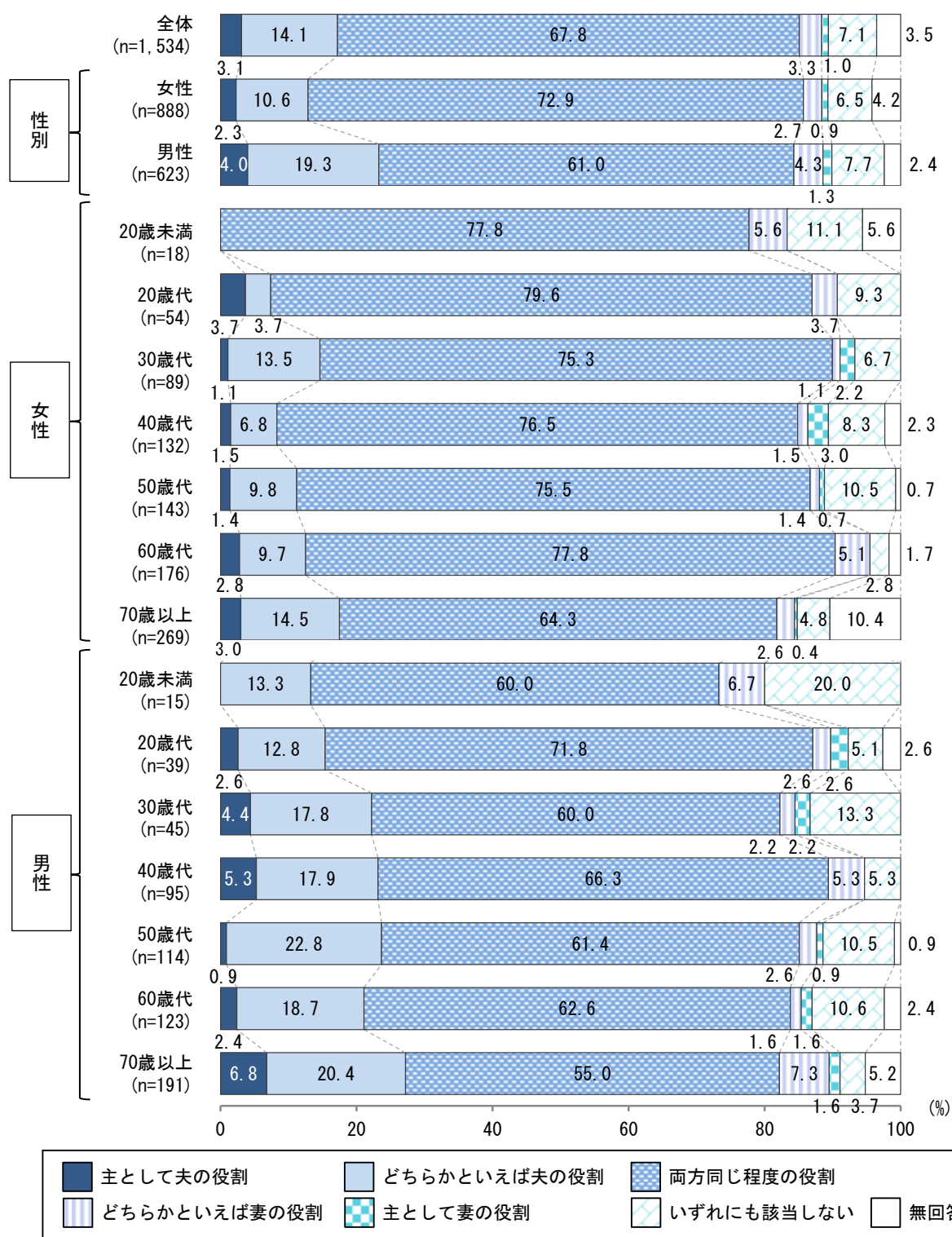
経年比較でみると、「両方同じ程度の役割」は増加傾向にある。また、『妻の役割』は令和6年調査(41.8%)が令和元年調査(55.9%)を14.1ポイント下回っている。

※「育児(乳幼児の世話)」は、H16 調査では「育児(乳児・幼児)」となっている。

※図表3-6-4は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

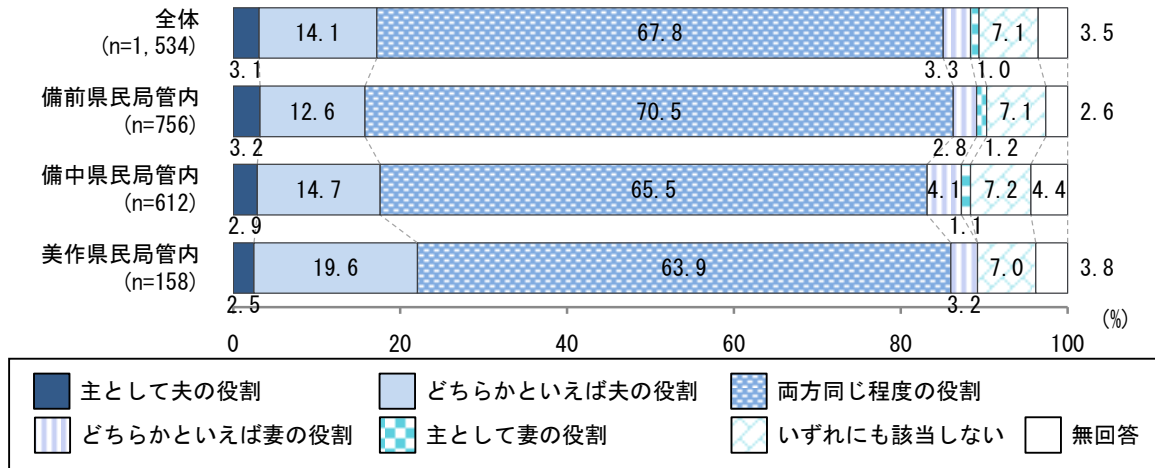
(g)地域活動への参加

【図表3-7-1 地域活動への参加(性別、性年代別)】



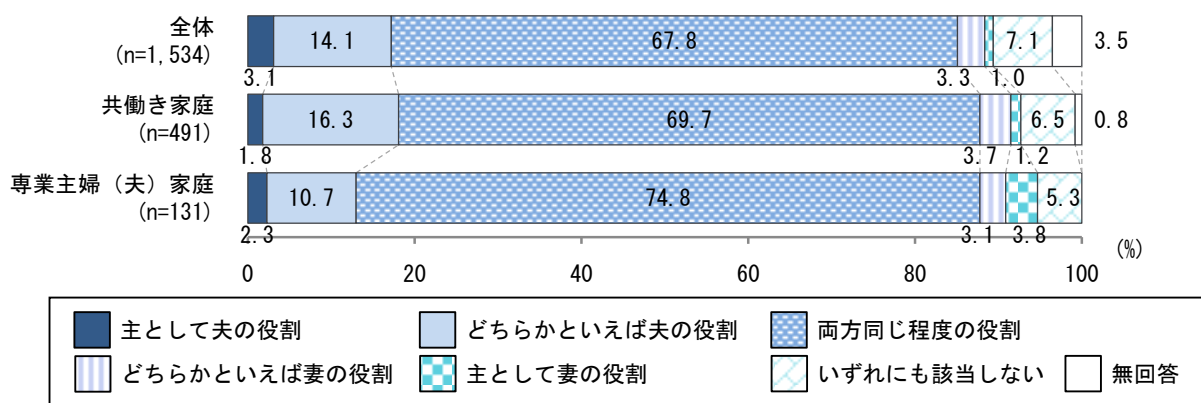
性別にみると、「両方同じ程度の役割」は女性(72.9%)が男性(61.0%)を 11.9 ポイント上回っている。
性年代別にみると、男女ともに「両方同じ程度の役割」がどの年代も最も高くなっている。

【図表3-7-2 地域活動への参加(地域別)】



地域別にみると、『夫の役割』は美作県民局管内で2割超、「両方同じ程度の役割」は備前県民局管内で約7割と高くなっている。

【図表3-7-3 地域活動への参加(就労状況別)】



就労状況別にみると、『夫の役割』は共働き家庭(18.1%)が専業主婦(夫)家庭(13.0%)を 5.1 ポイント上回っている。

【図表3-7-4 地域活動への参加(経年比較)】

(単位:%)

	主として夫 の役割	どちらか といえば夫 の役割	両方同じ程 度の役割	どちらか といえば妻 の役割	主として妻 の役割	夫の役割 計	妻の役割 計
H12	4.0	16.2	62.5	8.9	3.5	20.2	12.4
H16	4.1	12.8	68.2	7.2	2.9	16.9	10.1
H21	3.2	15.1	66.2	4.7	1.3	18.3	6.0
H26	4.5	14.6	70.9	4.5	1.0	19.1	5.5
R1	3.3	17.4	66.8	3.3	1.3	20.7	4.6
R6	3.1	14.1	67.8	3.3	1.0	17.2	4.4

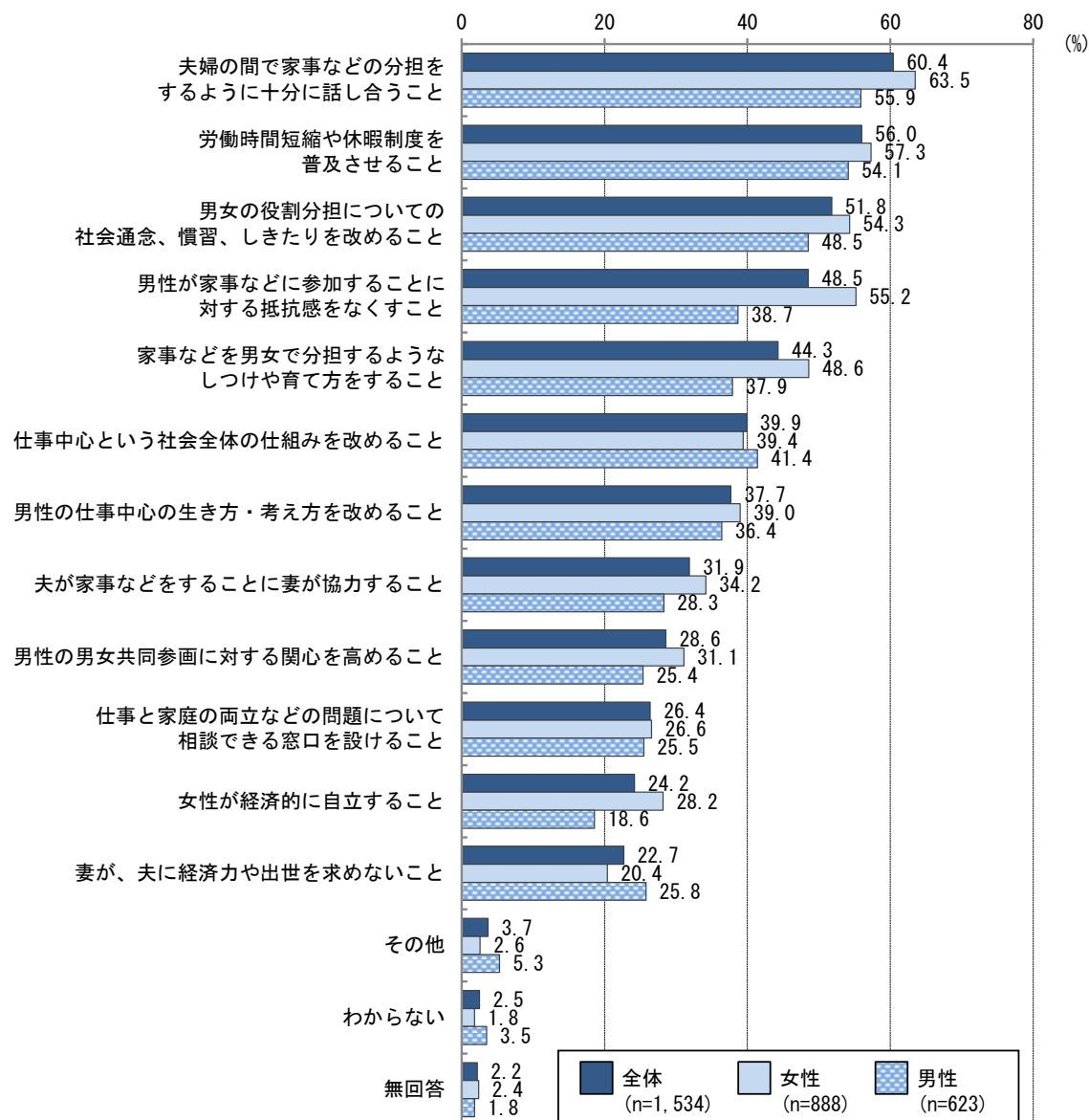
経年比較でみると、『夫の役割』は多少の増減はあるがほぼ横ばいで、大きな差はみられない。『妻の役割』は年々低下している。

※図表3-7-4は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

(4) 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと

問4 今後、男女がともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だとお考えですか。(✓はいくつでも)

【図表4-1 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと(性別)】



「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」が最も高い

男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なことについて、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」が60.4%と最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」(56.0%)、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(51.8%)などの順となっている。

性別にみると、「男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと」は女性(55.2%)が男性(38.7%)を16.5ポイント上回っている。

【図表4-2 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと(性年代別・上位 10 位)】

		n 数	と夫婦の間に家事などの話し合うことを	及労働時間短縮や休暇制度を普及させること	める通念、慣習、しきたりでの改社	男女の役割分担について	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	(%)
			と夫婦の間に家事などの話し合うことを	及労働時間短縮や休暇制度を普及させること	める通念、慣習、しきたりでの改社	男女の役割分担について	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	(%)
全 体		1,534	60.4	56.0	51.8	48.5	44.3	39.9	37.7	31.9	28.6	26.4	
年代別	女性	20歳未満	18	55.6	55.6	22.2	44.4	38.9	38.9	44.4	27.8	11.1	16.7
		20歳代	54	63.0	74.1	44.4	50.0	42.6	33.3	35.2	25.9	24.1	27.8
		30歳代	89	60.7	80.9	56.2	46.1	48.3	57.3	38.2	30.3	22.5	32.6
		40歳代	132	52.3	54.5	55.3	50.0	43.9	46.2	37.9	30.3	25.0	12.9
		50歳代	143	61.5	52.4	58.7	62.2	53.1	42.7	43.4	33.6	34.3	27.3
		60歳代	176	68.8	61.9	63.6	62.5	54.0	39.8	42.0	34.7	35.8	29.5
		70歳以上	269	68.8	47.6	49.1	54.3	46.8	30.5	36.4	39.4	35.7	30.1
	男性	20歳未満	15	33.3	53.3	40.0	13.3	6.7	33.3	26.7	13.3	6.7	26.7
		20歳代	39	43.6	71.8	48.7	35.9	38.5	61.5	25.6	20.5	23.1	30.8
		30歳代	45	35.6	66.7	33.3	28.9	31.1	64.4	20.0	22.2	20.0	15.6
		40歳代	95	63.2	61.1	37.9	44.2	45.3	42.1	38.9	24.2	21.1	29.5
		50歳代	114	53.5	56.1	57.9	43.9	42.1	45.6	44.7	35.1	19.3	26.3
		60歳代	123	60.2	47.2	53.7	35.0	34.1	39.8	39.8	20.3	26.8	20.3
		70歳以上	191	60.2	47.6	48.7	40.3	38.2	30.4	34.6	35.1	33.0	27.7

1位 2位 3位

性年代別にみると、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」は女性の 30 歳代で約8割、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」は男性の 20 歳代～30 歳代で6割台と高くなっている。

【図表4-3 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと(地域別・上位 10 位)】

		n 数	と夫婦の間に家事などの話し合うことを	及労働時間短縮や休暇制度を普及させること	める通念、慣習、しきたりでの改社	男女の役割分担について	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	(%)
			と夫婦の間に家事などの話し合うことを	及労働時間短縮や休暇制度を普及させること	める通念、慣習、しきたりでの改社	男女の役割分担について	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	(%)
全 体		1,534	60.4	56.0	51.8	48.5	44.3	39.9	37.7	31.9	28.6	26.4	
地域別	備前県民局管内	756	62.6	56.1	51.6	50.4	43.8	40.2	39.8	31.7	28.8	27.2	
	備中県民局管内	612	59.0	55.2	52.1	46.1	44.0	37.3	35.8	32.0	28.1	27.3	
	美作県民局管内	158	55.7	57.6	51.9	47.5	47.5	48.1	36.1	30.4	29.1	18.4	

1位 2位 3位

地域別にみると、「夫婦の間に家事などの分担をするように十分に話し合うこと」は備前県民局管内で6割超と高くなっている。

【図表4-4 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと（経年比較・上位10位）】

		n 数	夫婦の間で家事などの分担を するよう十分に話し合うこ	労働時間短縮や休暇制度を普 及させること	男女の役割分担についての社 会通念、慣習、しきたりを改 めること	男性が家事などに参加するこ とに対する抵抗感をなくすこ	家事などを男女で分担するこ うなしつけや育て方をするこ	仕事を中心という社会全体の仕 組みを改めること	男性の仕事中心の生き方・考 え方を改めること	夫が家事などをすることに妻 が協力すること	男性の男女共同参画に對する 関心を高めること	(%) 仕事と家庭の両立などの問題 について相談できる窓口を設 けること
経年比較	H16	2,064	37.5	34.9	39.6	25.2	24.2	21.2	19.9	9.3	19.6	11.8
	H21	1,490	35.8	35.2	32.7	26.5	23.2	20.0	18.0	10.5	18.0	13.5
	H26	1,386	37.8	38.7	34.0	26.8	23.8	26.5	19.5	10.9	17.5	11.7
	R1	1,532	39.0	37.4	36.8	25.8	24.3	26.4	19.1	9.1	16.3	10.5
	R6	1,534	60.4	56.0	51.8	48.5	44.3	39.9	37.7	31.9	28.6	26.4

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

経年比較でみると、「夫が家事などをすることに妻が協力すること」は令和6年調査(31.9%)が令和元年調査(9.1%)を 22.8 ポイント、「男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと」は令和6年調査(48.5%)が令和元年調査(25.8%)を 22.7 ポイント上回っている。

※H16、H21、H26、R1 調査では当てはまるもの3つまでの選択としていた。